**オニツカ株式会社**
神戸・大阪・東京・札幌



ハンド革——¥4,500
ハンド布——¥1,150

# ボールの動きに すばやく反応する

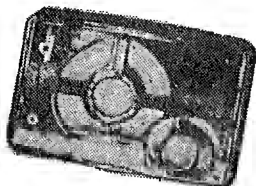


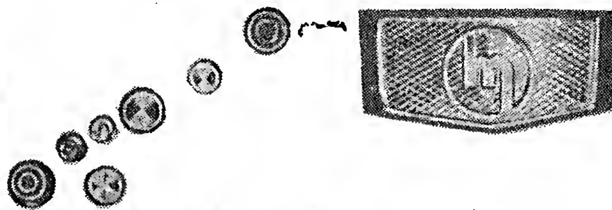

## タイガー ハンドボールシューズ

—ハンドボール協会指定—

プラスチックの総合メーカー

## メッキは金属だけでは…… ……ありません！



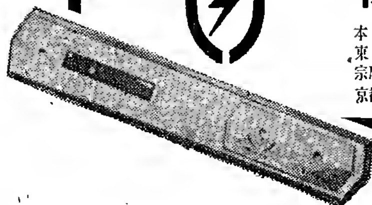


精密金型設計・製作
マイクロプラスチック成型
プラスチックメッキ



## 株式会社 宗形製作所

| | | | |
|---|---|---|---|
| 本　　社 | 大阪府高槻市辻子２４１番地 | TEL | 高槻(0726) 75－５５５１ |
| 東北本社 | 福島県福島市清水町字中谷地48番地 | TEL | 福島(02452)3－2812・2911 |
| 宗形工業化学株式会社 | 大阪府高槻市辻子２５２番地の１ | TEL | 高槻(0726) 75－5767～8 |
| 京都金型製作株式会社 | 京都市南区上鳥羽花名町１９番地 | TEL | 京都(075)６８－９７０１ |



## ミュンヘンへの道

本年度の選抜大会は完全な選抜方式、しかも男女ともナショナルチームが登場する。

国内の最高レベルの選手で編成されているナショナルチームが国内の大会に登場するのは初めてある。

これを迎える各チームも、特に男子はナショナルだけにはと斗志を燃やしているという。トップレベルのチームをなんとか破りたい。これは、全選手の願いであろう。一方対するナショナルチームはナショナルチームとしての意地にかけても敗けることはできない。

このような形で執念と執念のぶつかりあいが見られる形でこの大会が終始すれば、選抜方式をとったこの大会、大成功と言えよう。

チームを離れて、編成された選抜軍、一個の人間として、執念と執念の斗いということができれば、ナショナルチームにとってはアジア予選に勝ちぬくためにもっとも必要とされている精神力の養成になろうし、他にとっては、努力目標であるナショナルチームをたおすということに賭ければ、国内のレベルをより一層、たんに技術面だけでなく、精神面、体力面においても引きあげることになろう。

また、従来ナショナルチームが編成されても、その試合振りは送別試合、報告試合といったような、いわば親善試合的な試合しか企画されず、そのプレーぶりもごく限られた一部の人々しか見ることはできなかった。

今度は三日間にわたり、その試合ぶりが見られるとともに、相手は必勝の執念とタイトルをかけ望む各選抜軍、多くの人々に文字通り、国内の超一流のプレーを見せることになろう。

女子はこの大会では、ナショナルチームが抜群の力を発揮することが予想されているが、対戦する各チーム、執念をもやして、ナショナルチームに土をつけることを念頭において、試合をしてほしいものだ。

ここでナショナルチームを苦しめ、叩くことが、ミュンヘンへオランダでの好成績につながるのだということを出場する選手はもとより、国内の関係者全員が肝に銘じて、この大会を終始させてほしいものだ。

ミュンヘンの道がいかに厳しいものであるか、国内に於て、それをできるのはこの大会を於いて他にない。執念をもやした激烈な試合を期待したい。(藤本)

## 時　評

ひところは沖縄へ遠征するのも〝大事業〟であったが、社会情勢の好転は韓国、台湾さらにはヨーロッパ遠征さえも計画するチームが出て来ているようだ。

日本協会ではこうした実情を考りよして昨年すでにナショナルチーム以外の〝海外交流の自由化〟を決め加盟団体、単独チームの国際親善を歓迎する態度を採っている。

全名大ク(愛知)が台湾へ、ワクナガ薬品(大阪)が韓国へ遠征したことや、韓国の女子実業団・白花醸造が7月の全日本実業団選手権にオープン出場するなどはその好例である。この傾向は今後ますます強まると想われるが〝自由化〟とはいえ日本協会にまったくルールがないわけではない。

特に交流計画を事前に届出ることは必須の条件だ。この一線を徹底させておかないと国際的なトラブルを生じかねまい。

この問題と直接関係があってというわけではないが、日本協会の対韓国ルート、対台湾ルートというものをもう少しはっきりさせておく必要がありそうだ。

ことに日韓交流は、学生女子の実現で5部門が往来するわけでいろいろなルートが入り乱れてしまう危惧がある。

梨花大が来日するまでにも日本側にいくつかの〝混乱〟があったように聞く。国際交流でもっとも注意しなければならぬのは相手側にめいわくがかかったり礼を欠くことのないようにすることだ。

また単独チームの行動と日本協会の混同もタブーである。

古い話で恐縮だが、昭和43年秋来日した西ドイツ選抜の監督H・トルカ氏は女子ナショナルのコーチングスタッフに名を連ねる人だったが、公式の場では「今回はハンブルグクラブの一員として来たので……」といっさいナショナルコーチとしての発言を拒んでいた。見習いたい。

日本協会が海外交流をオープンにしているのは時代に即した良策であり、将来は日本協会以外の〝単位〟でヨーロッパの有力チームを招くような事業も生まれてくるだろう。

しかし、せっかくの前進的、建設的施策も、無暴勝手に乱用してはマイナスな方向に行ってしまう。

その不幸を予防するためにも日本協会はこの問題をもういちど点検しておく必要があるのではなかろうか。　(X)

「ハンドボール」 7月号（第88号）目次



【表紙写真】日体大―梨花大（6月3日・駒沢体育館）

# 大洋デパート勢中心に14選手

## 世界女子選手権代表決まる

日本協会は6月9日東京で第4回世界女子7人制選手権（12月11日～19日・オランダ）に参加する日本選手団17名（役員3、選手14）の名簿を発表した。

注目の代表選手14名はいずれも社会人で中京女大を今春卒業した北岡千賀選手（愛知ク）を除き、すべて実業団の主力選手である。山田計監督ら3名のコーチング・スタッフはすでに昨年末決定、発表ずみだった（本誌既報）。

日本チームがこの大会に参加するのは第2回（昭37）、第3回（昭40）につづいて3回目。国際ハンドボール連盟（IHF）からアジア大陸代表の資格が与えられ、予選は免除されていた。本大会には前回優勝国ハンガリーをはじめ9ケ国が出場する。なお、団長は未定。

世界女子7人制選手権の開催は6年ぶり。43年モスクワで予定された大会が政治情勢によって流会となったためだ。

発表されたメンバーでは2年連続4冠王の大洋デパート（熊本）からレギュラー7選手が揃って選ばれたのが目立つ。

また、進境めざましい東京重機（東京）の定評ある攻撃トリオが加わったのも注目されよう。

第2回に5、第3回に9選手を送り出した大崎電気（埼玉）も今回は2選手だけ。田村紡からはエース三毛が入った。流会したモスクワ大会には田村紡のレギュラー7人が全日本の主力として出場する予定だっただけに不運の先輩の分まで頑張って欲しい。

異彩を放つのはGK北岡。昨年末の候補選手25名のなかには4名の現役学生がリストアップされていたが、そのなかから栄光の座を得たのは北岡だけ。学生界出身の選手が世界選手権の代表に選ばれたのは第1回の山田帆浪選手（GK・日体大ーレナウン工業）以来2人目のこと。流会の前代表で今回も選ばれたのは枝尾、小原（ともに大洋デパート）の二人。

《選手決定まで》昨年末に発表された第一次候補選手25名（GK4、FP21＝本誌83号参照）のうち1月の第1回合宿を前に蓮見、江川（ともに日本ビクター）両選手の辞退があり23名が代表の座を狙っていた。

コーチングスタッフの意向はスピードのあるオールラウンドタイプを揃えることにあり、1月（東京）・3月（静岡）の合宿の結果3月12日富士市に勝技術指導部長、コーチングスタッフらが集って小委員会を開きその線にそった第2次候補14名（GK2、FP12＝本誌85号参照）を決めた。結果的にはこの14名が揃って代表に選ばれたわけだ。

第2次候補のリストが4月6日の常務理事会で発表された際「特に支障がなければこのメンバーを最終的な代表とする」ことの了解が得られており、その後、5月10日からの四日市合宿（通算第3回）を経て今回の発表となったものである。

なお、日本協会は2～3名の補欠選手（ウエイティング・メンバー）を選んでいるが氏名は発表されない。

### 第4回世界女子7人制選手権代表団

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ▽監督 | 山田　計 | (50才) | 日本協会常務理事 | |
| ▽コーチ | 宇津野年一 | (46) | 日本協会技術指導委員 | |
| | 井　薫 | (33) | 大洋デパート監督 | |
| ▽選手（14名） | | | | |
| GK | ①小原　名苗 | (22) | 湯出中ー大洋デパート | 163 |
| | ⑫北岡　千賀 | (22) | 高知西高ー中京女大ー愛知ク | 168 |
| FP | ②枝尾　清女 | (23) | 小峯中ー大洋デパート | 157 |
| | ⑤垂水　秀代 | (22) | 菊池農高ー大洋デパート | 163 |
| | ④三宅美智子 | (22) | 天草高ー大洋デパート | 156 |
| | ⑥米　恵美子 | (21) | 熊本市高ー大洋デパート | 162 |
| | ⑦渡辺須和子 | (22) | 菊池農高ー大洋デパート | 158 |
| | ⑭島田　夏枝 | (21) | 氷川中ー大洋デパート | 165 |
| | ③滝口　治代 | (21) | 山陽女高ー東京重機工業 | 159 |
| | ⑧牧野　涼子 | (21) | 秋田和洋高ー東京重機工業 | 162 |
| | ⑬古佐原ひろ子 | (20) | 小高農高ー東京重機工業 | 151 |
| | ⑪三毛　直子 | (20) | 松阪女高ー田村紡績 | 164 |
| | ⑩寺尾由美子 | (20) | 土居高ー大崎電気 | 153 |
| | ⑨三浦　朝子 | (20) | 花巻南高ー大崎電気 | 159 |

※右欄の数字は身長（cm）
○内数字は全日本選抜大会での背番号

# 日本、まず西独、デンマークと対戦

## 組合せ決まる

国際ハンドボール連盟（IHF）は5月23日バーゼル（スイス）で12月の第4回世界女子7人制選手権組み合せ会を開いた。

その結果、日本は予選リーグA組で西ドイツ、デンマークとまず対戦することに決まった。西ドイツは予選でスウェーデンを14ー8 21ー4と連破、デンマークはブルガリアを破って出場権を得たもの

▽A組　日本、西ドイツ、デンマーク
▽B組　ユーゴ、ルーマニア、ノルウェー
▽C組　ハンガリー、東ドイツ、オランダ

大会は12月11日から9日間オランダで開かれるが、競技法式は予選リーグ各組で総当りを行い、各組上位2国（ベストシックス）をさらに3ケ国づつ2組に分けて準決勝リーグとし、両組の同位者同士の対戦で1ー6位を決める。

東側諸国優勢という前評判が圧倒的なだけに日本の予選リーグ組み合せは幸運といえ念願のベストシックスが有望である。

# 「日本開催」の正式決定延期

## ～オリンピック・アジア予選～

### イスラエル、「旅費負担額」でこじれる？

　今秋のミュンヘンオリンピックアジア予選は日本で日本、韓国、イスラエル3国によって行われることが八分通り決まりながら最終段階を前に足踏みの状態となった。――日本協会は同予選の参加申しこみ〆切日を6月10日に決め（本誌既報）各国へ通達、その結果、6月3日に韓国、4日に日本が申しこみ書を日本協会へ届出た。ところがイスラエルからは7日午後「3月名古屋で開いた3国会議の同意事項（注・本誌86号詳報）を確認したい」との連絡があっただけで10日迄に申しこみ書はついに来なかった。

　日本協会では12日臨時常務理事会を開き「アジアで初の国際大会であること。36年ぶりに開かれるオリンピック出場権をかけてのこと」など友好面を考え、さらに7日に来信した「確認書」の返電期間などからイスラエルに対しては特に6月25日まで締切り日を延期、参加申しこみ書を送るよう促した。

　本誌締切日（6月20日）までにイスラエルから意思表示はない。日本側が、国際ハンドボール連盟（IHF）の4月29日付公文書にもとずいて「旅費負担額は40％」と三国会議を下廻る条件を提示しているなど、イスラエル側も簡単に日本の要請に応じるとは思えない。「IHFの指示よりも、三国会議の同意事項を優先して欲しい」という希望が寄せられるだろうという推測はもっとも強く、日本協会では〝すべて〟を6月26日の月例常務理事会（東京）で決めることにしている。

**苦しくなった資金の調達**

　日本協会執行部は最後までモヤモヤした空気に包まれている。それというのもイスラエルの煮え切らぬ態度に終始ふりまわされたからだ。3月22日の三国会議後イスラエルの代表ビラン同国オリンピック委員は『旅費の負担額60％ということに一応同意したが、本国に戻ってハンドボール関係者を説得できるかどうか。自信はあまりない』と語り日本協会関係者は4月29日期限の〝回答〟を不安げに待っていたものだ。それが「あと2週間ほど待ってくれ」との連絡で〝不安の期間〟は5月10日まで延長、ところが今度は10日を過ぎてもまったく音信がなく執行部も次第に不信を抱きはじめていた。5月15日の常務理事会が一気に「6月10日参加申しこみ〆切り、旅費はIHF規定の40％」の線を決定したのもそうした背景による。〆切日直前の7日午後、突然「3月の会議の各項目を確認したい。日本はイスラエル選手団の往復旅費60％を支払ってくれるか……」という手紙が舞いこんだ。荒川理事長は「今頃このような手紙を寄越すとはどういう気なのだろうか。なぜ5月10日までに聞いてこないのか」とふん満やるかたない表情。理事長ばかりではない。5月10日の期限を無断で守らなかったことから「一切の協定をキャンセル」するという強硬論も一部の理事からおこったほどである。

　25日まで締切りが延びたことで日本協会の準備は三度び延ばされることになる。これは大打撃だ。本来なら4月末に発足するハズの運営委員会もまだその活動は白紙といってよく、特に千五百万円の資金調達に関しては完全に出遅れた。残された百五十日余りでこのハンデをどう埋めていくか。執行部が苦境に立たされることも予想される。奇蹟的な追いこみを信ずるとともに全国の協力が望まれよう。最大の光明は立役者・ナショナルチームが順調に強化の成果をあげているということであろう。

# 使用球は日本製で

　日本協会はオリンピック予選運営の大綱を開催の成否を待たず次のように決めた。

一、競技は各国2回総当りとする

一、順位の決定は勝ち2点、引き分け1点、負け0点のポイントシステムによる。

一、一国のエントリーは役員2、選手16とする。（〆切りは10月10日）

一、使用球は日本協会公認球

一、審判員はIHFから派遣された4氏による

一、競技運営上のトラブルはIHFから派遣される代表者（1名）を中心に協議する。

# 第18回NHK杯 全日本選抜 展望

6月25～27日・東京体育館

## 対ナショナルチームが焦点

### 斗志燃やす各選抜軍

―男子―ナショナルチームにとっては一つの試錬の場といえる。快勝をつづけなければファンが承知しないだろう。だが、他の三チームも黙ってナショナルの独走を許しはしまい。こういう話がある。加盟団体それぞれの選手選考会議で異口同音に「もしナショナルを破ったらどうなる?」という言葉がかわされたというのだ「他はともかくナショナルには一あわふかしたい」とは全日本教職員選抜のある選手の言葉だが、学生勢も実業団勢もまったく同じ気持ちではないか。

それでなければ面白くない。初めからナショナルが苦労なしに白星を重ねていっては今年の企画の意味はないのである。

オリンピック予選でぶつかる韓国、イスラエル両チームは日本とは比べものにならぬといってよいほど〝国家意識〟が強い。世界10位の実績をもつ日本の技術的優位を誰もが認めていながら、なおその予選通過に楽観を許していないのは、実は両国の勝負に対する執着力を買ってのことである。

ナショナルがそうした異常なファイトの相手をどうかわすか。この大会は一つの〝テスト〟といえなくはない。

オリンピック予選という大事を背景にしてナショナルの優勝は不動、2位以下の順位争いもこの種大会では特に意味はないとなれば3日間ともナショナルチームの登場するカードが焦点。

大試合になればなるほど粘っこい実力を発揮する巧者揃いの教職員、若さがはち切れる学生の気力、技と力を結びつけた実業団……。

またオールスターゲームらしく各選手の個人技もハイライトだ。

木野、飯田、斉藤、平岡、有永らナショナルアタッカーの豪快な攻撃をはじめ野田、藤中、花輪（ナショナル）らテクニシャンの華麗なプレー、北井、大西（ともに教職員）、北村、市原（ともに実業団）ら元ナショナルプレイヤーの健在ぶり、西ドイツから帰国した近森（実業団）には以前にも増してみがきのかかった好プレーが期待できるなどみどころは多い。

なお、大会終了後、オリンピック第3次候補選手が新たに発表される予定。現候補に追加というかたちがとられることになろうが在野の選手にとっては最後のチャンスでもあり注目される。（杉山）

## 完ぺきナショナルの攻守

### 若手の成長ぶりにも興味

―女子―女子はナショナルチームが大洋勢を主力に、大崎電気、東京重機のアタッカーを揃え抜群の力をつけている。

心配されたコンビも合宿練習の成果で十分に解消されている。

昨年、国内無敵の強さを発揮していた大洋デパートの主戦メンバーGK・小原、FP・垂水、枝尾、米、渡辺、島田、三宅の7人に加えて、重機のアタッカー3人滝口、牧野、古佐原、これに大崎電気から、寺尾、三浦、田村紡から三毛を加え、更にGKに北岡という豪華メンバー。一寸国内では、相手になるところがなかろうというところ。

事実、合宿中にあたった練習相手は大差をつけられている。

学生選抜は日体大、大体大の東西の優勝チームを軸にした編成。ナショナルにはともかく、主軸をナショナルに出したあとの実業団選抜に対してどのような戦いぶりを示すか興味深い。学生界が実業団相手に一泡吹かすチャンスとも言える本大会だけに、ぜひとも健斗を望みたい。

関東実業団選抜は東京重機、日本ビクター、大崎電気によって編成されている。次代の斯界を背負う若手とベテランがミックスされて選ばれている。

特筆されるのは、本年日本ビクターに入社した、昨年のインターハイ優勝校水海道二高の主力選手であった谷沢、富山が新人ながら、関東実業団に選ばれていることだ。この二人をはじめとする若手がいかにナショナルチームにたちむかうか勝敗は別として、興味のもたれる点である。

東海選抜はブラザー工業を中心に、田村紡、大洋紡で編成される成長株の筆頭に数えられ、本年度は一つの眼になると考えられているブラザー工業の選手がどのような成長ぶりを示すか興味がもたれる。

優勝はナショナルが堅いと考えられる。おそらく三試合とも大差になろう。

二位争いは激烈をきわめよう。とかく不安定な要素の多い女子、しかも選抜となってはその日、その日のコンディションが大きく勝敗を左右しよう。

本年の選抜方式、勝敗もさることながら、個々の選手がいかに良いプレーをするか、いかに成長ぶりを見せるかも大会の一つのポイントになろう。好試合、好プレーを期待したい。なお、男女とも最高得点者の表彰が行われる。（藤本）

# 豪華、140人の精鋭一堂に

## 男子

◇ナショナルチーム（オリンピック第2次候補選手）
監督 村田弘
コーチ 竹野奉昭
K1 下里敏彦 大崎電気
12 本田洋 大阪イーグルス
17 大村久 全日体大
F2 飯田誠行 大崎電気
3 有永修二 東京海上
4 平岡秀雄 東京教員ク
5 斉藤光男 群馬教員ク
6 木野実 湧永薬品
7 早川清孝 湧永薬品
8 中井武三 大同製鋼
9 新実俊夫 芝浦工大
10 氷海正行 日体大
11 東一敏 大崎電気
13 藤中憲二 大同製鋼
14 花輪博 中央大
15 近藤信行 大崎電気
16 野田清 大同製鋼

◇全日本学生選抜軍（韓国遠征候補選手）
監督 中沢重夫
マネ 奥田祥一
K1 馬淵豊明 立教
12 森友通夫 大阪経大
F2 松原光三 日体大
3 佐藤要二 中央
4 佐々木健一 中央
5 明石雄次 芝浦工大
6 大江隆夫 芝浦工大
7 荒井正人 法政
8 松喜美男 日大
9 松井昭二 同志社
10 川上貴司 関学
11 中村博之 大阪体大
13 川口啓一 名城大
14 夏目真治 中京大
15 宮松久夫 関西大
16 山本信一 仙台大
17 木原秀樹 松山商大
18 小原由幸 金沢大
19 飼沼敏雄 名城大

◇全日本実業団選抜軍
監督 江名英彦
マネ 河原春充
K1 西牧健二 三景
12 柳川清 大同製鋼
F2 近森克彦 大崎電気
3 北村文雄 日本発条
4 小野口正二郎 日本発条
5 加藤友広 大同製鋼
6 市原則之 湧永薬品
7 喜田建男 三景
8 高梨豊 三景
9 内藤正美 三景
10 山原啓司 三景
11 植田健一 三景
13 武井幸一 三景
14 上平義則 三景
15 池崎源太郎 三景
16 西牧晃 三景
17 竹村正昭 三景

◇全日本教職員選抜軍
監督 高橋健夫
コーチ 光島磯雄
マネ 遠藤健次
K1 高橋邦勇 埼玉教員
12 綿貫敏雄 東京教員
F2 寺田嘉一 静岡教員
3 北山隆 スワロー兵庫
4 結城昭夫 埼玉教員
5 北井晴次 埼玉教員
6 高野亮 東京教員
7 大西武三 東京教員
8 福井稔 大阪イーグルス
9 樫塚正一 大阪イーグルス
10 小山哲夫 東京教員
11 井上亮一 スワロー兵庫
13 高田正徳 埼玉教員
14 上久保重次 埼玉教員
15 河原崎勇 大阪イーグルス
16 河住大次郎 埼玉教員
17 畑憲作 スワロー兵庫
18 谷藤勝美 岩手教員
19 浅野鉦也 東京教員
20 安達修三 大阪イーグルス

## 女子

◇ナショナルチーム（第4回世界女子7人制選手権代表団）＝メンバーは本誌2頁参照

◇全日本学生選抜軍
監督 藤原侑
マネ 藤森妙子
K1 大工原和子 日体大
12 戸谷有子 大阪体大
F2 永田美代子 日体大
3 小貫文恵 日体大
4 木村正子 日体大
5 嶋田ひろみ 日体大
6 福田利津子 日体大
7 堀江啓子 東女体大
8 韮沢美津子 東京教大
9 田島博子 中京大
10 佐竹文子 中京大
11 宮田紀子 中京大
13 安井栄子 中京女大
14 堀川景子 大阪体大
15 花谷英子 大阪体大
16 周防和子 大阪体大
17 岡静恵 大阪体大
18 玉岡豊子 大阪体大
19 辻律子 夙川学院
20 赤塚千賀子 日体大

◇関東実業団選抜軍
監督 近藤金博
コーチ 福本弘
コーチ 池田鉄哉
K1 長岡範子 東京重機
12 和田祥子 大崎電気
F2 鷲谷仁子 東京重機
3 新島文子 大崎電気
4 八重樫優子 日本ビクター
5 村上明美 東京重機
6 市川千晴 東京重機
7 長谷川和子 大崎電気
8 阿保順子 日本ビクター
9 葛西則子 東京重機
10 松本久美子 東京重機
11 鈴木栄子 東京重機
13 佐藤あや子 大崎電気
14 岩井悦子 大崎電気
15 蓮見彰子 日本ビクター
16 谷沢竜子 日本ビクター
17 富山恵美子 日本ビクター
18 高野晴子 日本ビクター

◇東海実業団選抜軍
監督 横地宇吉
コーチ 鈴木義男
コーチ 永富康広
コーチ 白神邦雄
マネ 田之上広子
K1 佐藤玲子 ブラザー工業
12 久保徳子 田村紡
F2 山田輝美 ブラザー工業
3 藤浪泰子 ブラザー工業
4 金村美代子 ブラザー工業
5 藤田栄子 ブラザー工業
6 長塚喜美子 ブラザー工業
8 辻敏子 田村紡
9 広森和代 田村紡
10 山根清子 大洋紡
11 平野礼子 大洋紡

◇審判団 安藤純光、清水正、岡村昭二、岡前義春、勝繁夫、大塚文雄、小林進、吉川充滋、伊崎克巳、石野誠

# 全日本学生選抜軍、韓国へ遠征

## 西団長ら役員決定

全日本学連は第5回日韓学生交流として7月1日から10日までの10日間全日本学生選抜軍を韓国へ派遣する。遠征メンバーは14名(GK2、FP12)の予定で春季リーグ戦の成績をもとに全国7学連からすでに19名(関東8、関西5、東海3、東北北海道、北信越、中四国各1)が候補選手として推せんされている。このうちの13名とオリンピック第2次候補に選ばれている現役3選手のうちから氷海正行選手(日体大)が加わる。選手名簿は6月下旬に発表される。

日韓学生交流は昭和36年10月日体大が招かれたのを第1回(注・11人制)に昨年まで4回の実績がつまれている。44年からは毎年行われるようになり〝国際定期戦〟として両国学生界のビッグエベントになった。今回はソウルなどで韓国学生チームと4試合の予定。昨年までの通算成績は日本側の23戦16勝6敗1分(11人制の6戦6勝を含む)。日本側の訪韓は36年、44年についで3度目だが選抜軍の遠征は初めてである。過去は2度とも日体大が単独で、全日本学生選抜軍による外国遠征は38年1月の第1回世界学生選手権(スウェーデン)参加以来8年半ぶり2回目のこと。

なお、全日本学連では5月29日東京で開いた会合で遠征役員を次のように決めた。

▽団長 西敏郎(慶大出・全日本学連会長)▽監督 中沢重夫(芝浦工大出・全日本学連理事)▽コーチ 江名英彦(立教大出・全日本学連技術部長)▽総務 藤松博(名古屋工大出、東海学連理事長)

## 近森克彦選手が帰国

西ドイツへ〝ハンドボール留学〟していた近森克彦選手(26才・芝浦工大出、大崎電気、元全日本選手)が6月6日元気に帰国した。

近森選手は昨年8月末から単身で西ドイツに渡り、同国ハンドボール界の名門ハンブルグ・スポーツクラブに加って全国リーグ(ブンデス・リガ)に出場、5月末に西ドイツの室内(7人制)シーズンが終了したため母国へ戻ったもの。日本選手が外国の最上位リーグで活躍したのは初めて。同選手は6月25日からのNHK杯大会に「全日本実業団選抜」の一員として出場する。

近森選手の話『全国リーグやソビエト、ユーゴナショナルとの対戦など約50試合に出場した。

日本人選手ということで観衆も注目してくれた。日本ハンドボール界の名を汚してはいけないと思いどのような試合でも〝厳しい〟プレーをしたつもりだ。

西ドイツはさすがに〝本場〟らしくすべて驚くべきことばかりだった。特に全国リーグを頂点にすそ広く拡がる層の厚さはすばらしい。ルブキング(元西ドイツのエース)をダンケルセンから引き抜いて話題になったネッテルスタットクラブにしても現在はまだ5部リーグの所属、うまくいっても全国リーグにランクされるまであと5年かかる。

西ドイツ関係者の日本への評価はかなり高い。アジア予選を勝ち抜いて来年ミュンヘンに来ることは確実だといっている。私は韓国よりも、ヨーロッパ諸国と交流の機会が多いイスラエルのほうを警戒すべきだと思う。』

# ワクナガ薬品、韓国で2勝1敗

国内最上位にあるワクナガ薬品(大阪・全日本実業団チャンピオンチーム)の湧永儀助監督ら一行15名は6月1日から12日まで韓国に遠征(自費)した。

韓国では3試合を行い2勝1敗の成績だった。(詳報次号)

対戦した3チームはいずれも韓国の社会人チーム。

第1戦は仁川の屋外コートで東洋公社とのあいだに行われ17—11

第2戦は大田(タイデン)体育館でトップチームの特殊金属と対戦16—10で連勝した。同チームはこれまで韓国選手権を2回獲得している強豪といわれ八千をこす観衆がつめかけた。

第3(最終)戦はソウル・奨忠体育館で慶熙大OBと顔を合せたが10—14で敗れ全勝はならなかった

3チームとも主力は韓国のオリンピック候補(訓練)選手とみられアジア予選を前に積極的な強化ぶりがうかがわれた。

試合場はいずれも40m×20mの国際規格よりせまくワクナガ薬品は存分にチーム力を発揮できなかったようだ。なお、日本の社会人チーム(男子)が韓国に遠征したのは昨年11月の愛媛クにづいで2回目。



初の日韓女子学生交流

日韓交流としては五番目の部門女子学生の交流が開始された。韓国から梨花大を招いて、東京で二試合、大阪で一試合、名古屋で一試合の親善試合が行なわれた。

梨花大チーム一行、韓成一団長以下、役員3、選手12計15名は当初6月1日来日の予定であったが都合で遅れ、6月3日15時40分羽田着の飛行機で来日、すぐに当日の夕刻に予定されていた日体大戦に臨んだ。

日体大戦では、旅の疲れと日体大の先制攻撃の前に全くなすところがなかったが、4日の対関西選抜戦で、もち前のファイトを見せ、勝利を握った。

このあと十分の休養をとり、7日には名古屋では、東海選抜軍を前半3−0と窮地に追いつめたが、後半反撃され、4−4と引きわけた。

ついで10日、最終戦の東京女子体育大戦は13−7で破れ、結局1勝1分2敗の成績を残して、12日帰国した。

2月、来日の白花醸造ほどではないにしても、その勝負に対する執念、ボールセンス、体力などには見習うべきものがあろう。

## 日体大の先制攻撃冴える

### 梨花女大は5点を得たのみ

▽第1戦　6月3日18時45分試合開始、於駒沢体育館、審判・佐野和夫・安藤純光　観衆＝一千

日体大 17（10−2／7−3）5 梨花女大

| 【日体】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 丸茂 | 0 |
| GK | 大工原 | 0 |
| FP | 永田 | 2 |
| FP | 赤塚 | 3 |
| FP | 小貫 | 4 |
| FP | 木村 | 2 |
| FP | 嶋田 | 1 |
| FP | 福田 | 1 |
| FP | 八木 | 1 |
| FP | 岩本 | 2 |
| FP | 小林 | 1 |
| FP | 高村 | 0 |
| | 7MT | (1) 17 |

| 【梨花】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 朴吉潤 | 0 |
| GK | 沈順照 | 0 |
| FP | 金延美 | 0 |
| FP | 金恵淑 | 0 |
| FP | 徐香南 | 0 |
| FP | 尹栄旭 | 1 |
| FP | 崔富玉 | 0 |
| FP | 呉仁淑 | 0 |
| FP | 李美羅 | 1 |
| FP | 鄭仁淑 | 3 |
| FP | 趙蓮姫 | 0 |
| FP | 権貞順 | 0 |
| | 7MT | (0) 5 |

○……試合はスローオフ直後、1分もたたない間に、日体大はスローオフのボールを廻し、それを関東リーグの得点王になった木村に右45度からミドルうたせて、まず1点、幸先の良いスタートをきった。

○……つづいて、梨花大のシュートをキャッチしたキーパーボールからのパスアウトを赤塚が決め、2分足らずで2点。ついで2分半カットボールをつないでスタート良くとびだした小貫へ好パスが渡り、小貫がこれを決め、2分半で3点、またすぐにカットボールを小貫が決め、連続得点、つづいて4分半には、キーパーからのパスアウトを小貫が決め、4分半にして、5−0とリードを奪い、試合の興味はそがれた。

この間、梨花大は3時間前に来日したばかりで、全く浮足だち、守備らしい守備をしないうちに、日体大にたてつづけに速攻を出され、攻めても日体大ディフェンスの出足の良さにカット、あるいは打つシュートはややムリな状態からのものが多く、これをキーパーにキャッチされ、すばやいスタートの日体のFPにパスアウトされ全くノーマークのゴールを許していた。

日体大はこの好調な出足で、全く自己のペースで試合を進めたがここでやや油断がめだった。攻撃にもミスが出はじめた。その好例が、10分に尹に初得点を許したことであろう。ダイレクト・フリースローを全くボヤッとしていて、決められ5−1。このあと日体大は14分木村が7MT、18分小貫、20分福田、21分小貫と速攻を中心にして得点を重ね、24分には、梨花大がコーナースローをキーパーに返すところをカットし、そのままゴールする嶋田の拾いものの点を加え、梨花大の攻撃は17分李のアンダーシュート1点に押え、10−2の8点差をつけて、前半を終

了した。

後半に入り、梨花大の反撃が期待されたが、先手は日体大がとった。

26分、二段速攻から永田がミドルを決め、つづいて26分30秒には赤塚がキーパーボールからの速攻を全くノーマークで決め、梨花大反撃の出鼻をくじいた。

つづいて攻撃の手をゆるめず、31分にはまた赤塚がカットボールからのパスアウトを決め、32分30秒には、岩本が同じくカットからの速攻を決めて、14－2の大差とした。

梨花大はこの間、攻撃の時間はかなりかけてはいるが、ボールは中央で廻っているだけ、フェイントをかけ、良く動いてはいるが、ある瞬間に動いているのは1人、つづいて次にまた1人が動くという形なので、日体大のディフェンスは全く崩れない。

ようやく33分になって、左サイドから、李の浮かし気味のシュートが決った。これを境にして、梨花大のボール保持時間は長くなった。日体大はメンバーを入れかえる余裕を見せ、その間、速攻ミスが続き、得点にはならない。10点以上の差をもっているので、いささかノンビリムードになった。

梨花大は変らぬ調子で中央でボールを廻し、1人がつっこむという単発な攻撃の繰り返し、しかも多くの場合、ポストに人がいないいても動きがないということで、きわめて単調な攻撃。40分に李が46分30秒に李が決めただけ。この間日体大は46分からまた3点を速攻であげた。日体大のあげた得点のうち、15点が速攻もしくはそれをキッカケにしたものであることを考えると、完全な日体大の先制速攻勝ちと云えよう。梨花大には来日早々のやや気の毒な試合であった。

(藤本 強)

| ——梨花女子大メンバー—— | | | |
|---|---|---|---|
| 団長 | 韓 成 一 体育大学長<br>HAN SUNGLL | | |
| 監督 | 金 鍾 光 教授<br>KIM CHONG SUN | | |
| コーチ | 金 正 秀<br>KIM JUNG SOO | | |
| GK | 朴 吉 潤<br>RARK GIL YOUN | 166 | 63 |
| | 沈 順 照<br>SIM SUN HEE | 164 | 56 |
| FP | 金 延 美<br>KIMJUNGMI | 167 | 60 |
| | 金 恵 淑<br>KIM HYE SOOK | 163 | 54 |
| | 徐 香 南<br>SEO HYANG NAM | 158 | 56 |
| | 尹 栄 旭<br>YOON YOUNG YOG | 165 | 59 |
| | 崔 富 玉<br>CHOI BU OAK | 155 | 52 |
| | 呉 仁 淑<br>OH IN SUK | 165 | 50 |
| | 李 美 羅<br>LEE MI RA | 166 | 63 |
| | 鄭 仁 淑<br>JUNG IN SOOK | 164 | 57 |
| | 趙 連 姫<br>CHO YOUN HEE | 158 | 58 |
| | 権 貞 順<br>KWON JUNG SOON | | |

# 梨花大1勝をあげる

## 関西選抜ミスで自滅

▽第2戦 6月4日午後6時、於大阪市中央体育館 審判＝山田計 稲石三二

梨花女大 8 (4－2 / 4－4) 6 関西女子学生選抜

| 【梨花】 | 得 | | 【関西】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 朴吉潤 | 0 | GK | 戸谷(大阪体大) | 0 |
| 沈順照 | 0 | GK | 柿田(甲子園大) | 0 |
| 金延美 | 0 | FP | 玉岡(大阪体大) | 1 |
| 金恵淑 | 1 | FP | 辻(甲子園大) | 0 |
| 徐香南 | 1 | FP | 和歌(甲子園大) | 1 |
| 尹栄旭 | 3 | FP | 岡(大阪体大) | 3 |
| 崔富玉 | 0 | FP | 花谷(大阪体大) | 1 |
| 呉仁淑 | 0 | FP | 辻(夙川短女) | 0 |
| 李美羅 | 0 | FP | 乗正房(甲子園大) | 0 |
| 鄭仁淑 | 2 | FP | 堀川(大阪体大) | 0 |
| 趙蓮姫 | 1 | FP | 白井(甲子園大) | 0 |
| 権貞順 | 0 | FP | 周防(大阪・大) | 0 |
| | 8 | 7MT | | 6 |

○……試合は昨日の日体大戦とは変り、梨花大のペースのうちにはじまった。旅の疲れもややとれ、日本のチームに慣れはじめた梨花大は積極的な攻撃をしかける。

○…尹、鄭のミドルシュートがよく決り、自己のペースで試合を進める。関西選抜もキーパーからのワンパスの速攻で、非常に数多くのチャンスを迎えはするが、キャッチミスや、ワンパス後のパスミスなどが出、得点にはならない。常に梨花大のあとを追う形で、追いはするが絶好のチャンスをみすみす自らのミスで潰してしまうことが余りにも多い。

それでも、前半はなんとかリードされると追いつき、またリードされると追いつくという試合経過で4－4の同点で終了することができた。

後半、関西選抜の反撃が期待されたが、試合の経過は前半同様であり、常に先手は梨花大がとった。

この試合、梨花大は他の試合と異なり、尹と鄭に加えて、金、徐趙らも得点をあげた。梨花大は尹と鄭を中心に自己のペースで得点をミドルシュートを中心に重ね、関西選抜のミスにも救われ、1勝をあげることができた。

関西選抜は春のシーズンで勝ち点が同率で、一、二位になった大阪体大、甲子園大から選手がほぼ半数ずつを占め、必ずしもコンビがとれていなかったこともあってが、キャッチミス、パスミスが連発し、特に後半、いざ反撃という時に多くのミスが出、ペースに乗れず自滅した感が強い。

なお、これに先立ち、男子の一部選抜と二・三・四部選抜の試合が行なわれ、19－19の引き分けにおわっている。

# 鄭が全得点決める

## 東海、終盤の反撃で引き分け

第3戦・東海学生選抜との試合は7日17時30分から名古屋市体育館で行われた。審判＝山田計、稲石三二。

梨花大 4（3—0 / 1—4）4 東海学生選抜
引き分け

| 得 | 【東海学生選抜】 | | 【梨花】 | 得 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 0 | 宅　永（中京女大） | GK | 沈順熙 | 0 |
| 0 | 横　井（中　　京） | GK | 朴吉潤 | 0 |
| 3 | 大　崎（中京女大） | FP | 金延美 | 0 |
| 0 | 田　島（中　　京） | FP | 金恵淑 | 0 |
| 0 | 宮　田（中　　京） | FP | 徐香南 | 0 |
| 0 | 佐　竹（中　　京） | FP | 尹栄旭 | 0 |
| 0 | 大　城（中京女大） | FP | 崔富玉 | 0 |
| 0 | 岡　野（愛知教大） | FP | 呉仁淑 | 0 |
| 0 | 足　立（愛知教大） | FP | 李美羅 | 0 |
| 1 | 安　井（中京女大） | FP | 鄭仁淑 | 4 |
| 0 | 川　北（中京女大） | FP | 趙蓮姫 | 0 |
| 0 | 松　本（中京女大） | FP | 権貞順 | 0 |
| 4 | （1） | | （0） | 4 |

【交代】▽東海FP酒井（中京女大）中島（中京女大）いずれも得0

来日が確定して20日間あまりの余裕しか無かった今回の梨花大の来日には、国際試合のあり方に対し多くの問題を投げかけながら6月7日に東海学生選抜チームとの対戦となった。

単独チームの長所と、即成混成チームの短所とが、あきらかに見えた前半であった。技術的には、それ程優れたプレーヤーの居ない梨花大だったが、5番の尹栄旭を中心に鄭仁淑にボールをまわし、ゲットさせるコンビネーションだけは光っていた。それに比べ東海選抜は、大崎（中京女大）安井（中京女大）宮田（中京大）など個人技に優れたものを持ちながら、思うにまかせず、前半、ミスの連続で零点に終ってしまった。後半、鄭仁淑がマークされ梨花大は攻めの方策を失い、2分、4分と東海選抜の速攻にあい、2点を失い16分、19分と加点され、同点においつかれた。後半残り5分あたりで、梨花大の浮足立ったディフェンスから、7Mスローをとりながら、リード出来なかった。東海選抜は、一時的なゲームの盛り上りはあったにしろ、決してほめられたものでは無かった。タイムアップまで、全力を出し切れずに終ったゲームであった様に思う。

同点、追いこみなどゲーム展開では、一応面白味はあったが、内容の乏しい。レベルの低い感を受けたのは、私一人では無い様に思う。

出場選手、監督、コーチ、役員の方達の努力には、心から敬意を表したいが、国際試合が、単なる親善だけに終り、日程の消化だけが精一杯という外国チームの招待のあり方に大きな疑問が残る。

（藤松博＝東海学連理事長）

# 東女体大後半つき放す

第4戦・東京女子体育大学との試合は10日18時から駒沢体育館で行われた。観衆約七〇〇、

東京女子体育大学 13（7—1 / 6—6）7 梨花女大

| 得 | 【東女】 | | 【梨花】 | 得 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 0 | 増　田 | GK | 朴古潤 | 0 |
| 0 | 三　上 | GK | 沈順熙 | 0 |
| 3 | 高　橋 | FP | 金延美 | 0 |
| 6 | 堀　江 | FP | 金恵淑 | 0 |
| 1 | 川　井 | FP | 徐香南 | 0 |
| 2 | 勇　次 | FP | 尹栄旭 | 3 |
| 0 | 屋　良 | FP | 崔富玉 | 0 |
| 0 | 岩　間 | FP | 呉仁淑 | 0 |
| 0 | 塩　谷 | FP | 李美羅 | 0 |
| 0 | 永　井 | FP | 鄭仁淑 | 4 |
| 0 | 西　田 | FP | 趙蓮姫 | 0 |
| 0 | 本　告 | FP | 権貞順 | 0 |
| 13 | （0） | 7MT | （1） | 7 |

審判＝佐野和夫、岡前義春

試合は梨花大のスローオフで始まり、梨花大はそのボールを尹がミドルを30秒にみごとに決め、好調なスタート。

東女体大のディフェンスはツメが甘く、初めての国際試合にあがったのか、攻撃も精彩がなく、ミスが多い。

梨花大は2分、7分30秒に鄭がアンダーシュートを決め、3—0東女体大はこの間数多くのチャンスをつかみながらも、シュートに力がなく決らない。東女体大が初のシュートを決めたのは10分になってから、高橋がミドルを決め、続いて、30秒後に勇次がカットから速攻を決めた。しかし、すぐに梨花は鄭が三たびアンダーシュートを決め、つき放す。17分には尹がミドルを、21分には一度ポストに入れたボールをリターンパスさせ再び尹が決め、6点、東女体大もこの間堀江が速攻、二段速攻をポストからと着々加点した。梨花大にとって惜しまれるのは、24分・7MTを得、これを尹がミスしたことである。このミスでリバウンドしたボールを東女はポストに入った堀江にパスを入れ、24分30秒に6—6の同点に追いついた。

後半は完全な東女のペース、見違えるばかりになった守備から、次々と速攻がくりだされ、一段で攻めきれなくても、セットも多彩になった。28分、29分、32分、36分と加点し、その後も着実に点をとった。梨花は全く攻め手がなくなり、44分の鄭の7MTだけ。第一戦と比べてセットは多彩になったが、対速攻の守備とスタミナという問題の解決が課題となろう。

両国とも大学レベルは実業団に比べるとおちる。今後の精進が必要となろう。問題はいろいろあろうが交流は盛んにすることが望ましい。

（F）

# 住友化学（優勝）セントラル自動車上位リーグへ

昭和46年度全日本実業団トーナメント（男子のみ）は6月13日から16日までの4日間山口県下松市に全国から32チーム（棄権1）が参加して行われた。

上位リーグ（全日本実業団選手権＝7月・名古屋）進出を狙って実力伯仲の熱戦を演じた末，古豪住友化学菊本（愛媛）が躍進・セントラル自動車（神奈川）を破って初優勝。決勝に勝ち残った両者が選手権への出場権を握った。

## 全日本実業団トーナメント・下松市

### 新日鉄名古屋、緒戦で敗る
### 神奈川勢揃って2回戦へ

▽1回戦

日進商会（神奈川）24（10―1　14―10）11 大阪ガス（大阪）

三井石油（山口）24（9―8　15―6）14 タヨシ産業（愛知）

日本鋼管福山（広島）不戦勝 京都信用金庫（京都）

武田薬品光（山口）18（10―6　8―6）12 日本合成ゴム（三重）

富士レジン（兵庫）21（10―8　11―8）16 出光興産徳山（山口）

自衛隊勝田（茨城）23（9―8　14―9）17 新日鉄名古屋（愛知）

日新製鋼呉（広島）36（21―5　15―6）11 静岡日野自動車（静岡）

セントラル自動車（神奈川）28（14―6　14―12）18 自衛隊徳山（山口）

大山商会（大阪）23（13―5　10―9）14 北陸電力（福井）

日本鋼管京浜（神奈川）16（10―7　6―5）12 三菱レイヨン大竹（広島）

丸善石油下津（和歌山）29（19―11　10―5）16 三菱油化（三重）

日本ゼオン徳山（山口）23（9―8　14―11）19 サントリー武蔵野（東京）

トヨタ車体（愛知）31（17―11　14―10）21 川崎重工（兵庫）

日本発条（神奈川）27（15―10　12―5）15 境港市役所（鳥取）

住友化学菊本（愛媛）24（13―3　11―9）12 神戸製鋼（兵庫）

自衛隊宇都宮（栃木）24（12―11　12―6）17 山陽パルプ岩国（山口）

○…かっての上位リーグチーム、新日鉄名古屋が自衛隊の雄勝田に前半に差をつけられ、それを追ったが、追いきれず、一回戦で姿を消した。

古豪同士日本鋼管京浜×三菱レイヨン大竹は日本鋼管が後半に優位にたち、そのまま押しきった。

移籍選手を多く入れ、強化に努めているトヨタ車体は強化の効果があって、大量点をあげたが、デイフエンスに問題があろう。

境港市役所は後半日本発条によく喰い下ったが、力の差はいかんともしがたかった。

### 住化、日本発条に快勝
### セントラルは日新呉制す

▽2回戦

日進商会 28（16―8　12―5）13 三井石油

日本鋼管福山 15（9―5　6―9）14 武田薬品光

セントラル自動車 22（15―7　7―11）18 日新製鋼呉

大山商会 20（9―9　11―5）14 日本鋼管京浜

自衛隊勝田 26（1―1　3―2 ： 12―9　10―13）25 富士レジン

丸善石油下津 25（15―8　10―6）14 日本ゼオン徳山

トヨタ車体 29（12―13　17―12）25 自衛隊宇都宮

住友化学菊本 27（16―9　11―6）17 日本発条

○…セントラル自動車×日新製鋼呉はセントラルが前半の4点差をもち前の攻撃力にものをいわせて、後半なかばにはね返し、そのまま押しきった。

自衛隊勝田×富士レジンは勝田得意の後半の追いこみが功を奏し延長にもつれこみ、延長前半にあげた1点のリードをそのまま見事に粘り勝った。

### 大山商会、丸善石油に敗る
### 自衛隊勝田も惜敗

▽準々決勝

日進商会 28（16―9　12―7）16 日本鋼管福山

セントラル自動車 25（11―12　14―5）17 自衛隊勝田

丸善石油 22（10―10　12―9）19 大山商会

住友化学菊本 26（14―11　12―6）17 トヨタ車体

ほぼ予想されたメンバーがベストエイトに並んだ。

4試合ともかなりもつれるものと予想されていたが、いずれも、前半リードしたチームが快調にとばし、かなりの差をつけ、後半もその差を有効に生かし、相手の反撃を押え、ベストフォアに進んだ。

各試合とも点差はあいたが、内容的には、点差よりもずっと中身のこい試合であった。

## 日進、丸善上位リーグへの夢消える

▽準決勝

セントラル自動車 21（8－7、13－7）14 日進商会

| 【セ自】 | 得 | | 【日進】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 吉賀 | 0 | GK | 佐藤 | 0 |
| 中村 | 0 | FP | 米沢 | 5 |
| 羽毛田 | 2 | | 正本 | 1 |
| 若崎 | 3 | | 永嶋 | 3 |
| 峰 | 8 | | 大山 | 2 |
| 加藤 | 6 | | 出口 | 2 |
| 小沼 | 0 | | 北橋 | 1 |
| 清水 | 2 | | 古屋 | 0 |
| 鎌田 | 0 | | | |
| 新開 | 0 | | | |

14（0）7MT（2）21

○……予想通り神奈川勢同士の対決となった。後半セントラル自動車はもち前の攻撃力を発揮したてつづけに峰、加藤らが得点を重ね、日進商会をふりきり、上位リーグ進出を決定した。

セントラル自動車の攻撃力のレベルは大いにアップしているが、ディフェンスに問題があろう。

住友化学（菊本） 23（14－7、9－8）15 丸善石油（下津）

| 【住化】 | 得 | | 【丸善】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 藤田 | 0 | GK | 堀江 | 0 |
| 加藤 | 7 | FP | 岸本 | 0 |
| 落海 | 2 | | 辻井 | 0 |
| 平野 | 0 | | 三木 | 1 |
| 伊藤 | 7 | | 松本 | 2 |
| 神代 | 1 | | 刀称 | 6 |
| 白石 | 1 | | 戸田 | 5 |
| 曽我部 | 5 | | 松川 | 0 |
| 長嶺 | 0 | | 村畑 | 0 |
| | | | 加古 | 0 |

15（3）7MT（1）23

○……国体を控えた丸善も、昨年のインターハイ優勝校・新居浜工からの曽我部をはじめとする若手の躍進で見違えるばかりにチーム力の向上した住友化学が相手では、一寸荷が重かった。

前半住化が、加藤、伊藤のミドル攻撃を中心にしてあげた得点が最後までひびいた。しかし、丸善の成長ぶりは今後が楽しみだ。

## セントラル遂に及ばず

### 後半、住化につきはなされる

▽決勝

住友化学（菊本） 22（8－8、14－7）15 セントラル自動車

| 【住化】 | 得 | | 【セ自】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 藤田 | 0 | GK | 吉賀 | 0 |
| | | | 片桐 | 0 |
| 加藤 | 7 | FP | 中村 | 3 |
| 落海 | 3 | | 羽毛田 | 1 |
| 平野 | 0 | | 若崎 | 2 |
| 伊藤 | 3 | | 峰 | 5 |
| 神代 | 0 | | 加藤 | 1 |
| 白石 | 4 | | 小沼 | 0 |
| 曽我部 | 4 | | 清水 | 3 |
| 原 | 1 | | 新開 | 0 |
| 長嶺 | 0 | | 吉沢 | 0 |
| | | | 石垣 | 0 |

15（0）7MT（1）22

前半、住化は洗練されたチームプレーで押し気呼に試合を進めていたが、セントラルのGK・吉賀の好守に阻まれ、押している割に得点がとれない。セントラルはこの間、GKの好守によって難点とされていた守備の破綻が生じなかった。

後半、住化はトップにすえた加藤を中心にして連続5点をあげ、この時が勝負のわかれめになった。一寸したスキをつく、住化のチーム力はやはり実業団球界の古豪と呼ばれるだけのものを備えていた。

▽三位決定戦

日進商会 18（9－6、9－9）15 丸善石油（下津）

日進商会の辛勝におわった。丸善は今一歩の力が欲しいところである。

## 2部制の成果実る

### 著しい技術向上のあと

○……各試合ともはっきりレベルアップのあとを示す好内容。実連関係者を喜ばせた。

『特にベストエイト以降の各試合は"全国大会"の名にまったく恥じないモノ。気をよくしているところです』と田中滋章実連理事長も威勢がいい。

実連が全国大会で初の「2部制」を布いたのは44年、ことしで3回目にあたる。このシステム、日本協会でなかなか理解されなかったイキサツがある。一つの加盟団体にまぎらわしい二つの"全国選手権"があるのはおかしいというのが多くの声であった。どうにかそれを説得しての実施、ようやく実が結びつつあるといってよい。

○……会社側の全面的協力のあるチームと同好会的なチーム。実業団球界の発足時からこれは課題であった。その差をなくすためには実力別大会が適策という考えは渡辺和美初代理事長（現日本協会副会長）の頃から一貫していた。

2部制が布かれるようになって厚味もできた。今年のトーナメントなど4～5年前の大会と同レベルだ。大崎電気（埼玉）という強豪はいたが、全般的な力となると学生界はもとより教員界の後塵を拝さなければならなかった時代も永くつづいた。上位リーグを目指す中堅チームの発奮が好材料になっているのである。

○……いささか飛躍した話になるが、この思い切った策で実業団球界は国内のトップゾーンを形成する日を早めたと思う。

その意味で田中理事長の敏腕を高く評価したい。強引とも思える策をとり、批判を買う時もあるようだが、彼を中心とした実連執行部の次々と打ち出す企画力は日本協会をしのぐ。2部制も企業側の競争意識を高めるという効果があったようだし女子のマンネリ化打破のため白花醸造を韓国から呼び寄せる案などみごとだ。

○……実連の狙いは"日本リーグ"だ。学生勢の手を借りなくてもトップチームが揃うようになった時、彼らはこの宿願に踏み切るだろう。

今大会の充実は、その日が近いことを示し、関係者の自信を高めさせたのではなかろうか。（X）

# 大洋デパート好調持続か 女子

## 男子 3強（ワクナガ 大同製鋼 大崎電気）激突に興味

## 全日本実業団 白花醸造（韓国）がオープン参加

今年の実業団チャンピオンチームを決める第12回全日本実業団選手権（日本実業団リーグ）は、女子が7月7日から11日まで熊本市で、男子が7月21日から25日まで名古屋市で行われる。

女子は国内最強8チームに韓国から白花醸造（ソウル）を招待する新機軸に注目が集まり、一方男子はいまや伝統の学生界に代って国内のトップゾーンに躍進、ナショナルプレイヤーを主力の3強の激突が焦点となろう。（編集部）

### 女子

〔試合方法〕予選リーグのあと各組上位2者ベストシックスが決勝リーグを行う。この場合予選リーグの記録はそのまま適用される。なお各組3位によって7〜9位決定リーグも行われる。

※

次々に新しい企画を打ち出している全日本実連だが、今年はまず上位チームの固定化脱皮を目的にソウルから韓国女子実業団のトップチーム白花醸造を招く。日程に組みこまれるがオープン参加として扱われ、いわば〝第2回日韓親善女子社会人交流〟である。

白花醸造は今年2月初来日しておりこの時は2勝2敗1分（8—11大崎、9—17日本ビクター、8—8田村紡、10—8ブラザー工業11—7新居浜選抜）で帰国、『日本ならB級の上』という評判であった。

しかし前回は10日間に5都市を転戦、日本チームにもなれず全力を発揮できたとも思えない。熊本にじっくり落ちつき、しかも日本の攻守の手の内もある程度は判ったとなると今回は相当警戒してかからなければいけないだろう。

陣頭指揮の姜正俊社長も金監督（成均館大OB）も今回の招待には大喜びで「オープン参加とはいえよい成績をあげて実連の好意に報いたい」といっているだけにその試合ぶりは大いに注目される。

攻撃の中心は俞、権、朴らで別表の右欄は2月来日時の総得点だが、このトリオが圧倒的な力をもっていることが判る。

白花醸造（韓国）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 監督 | 金 | 栄佑 | (31) | |
| GK | 李 | 太妊 | (18) | |
| | 申 | 恵泳 | (18) | |
| FP | 黄 | 月暎 | (20) | |
| | 尹 | 永全 | (18) | |
| | 李 | 純玩 | (18) | |
| (主将) | 俞 | 慶淑 | (18) | 13点 |
| | 鄭 | 淳福 | (21) | 4 |
| | 尹 | 顕淑 | (18) | |
| | 権 | 美子 | (18) | 9 |
| | 卓 | 英子 | (18) | |
| | 高 | 善龍 | (18) | 5 |
| | 朴 | 光子 | (19) | 9 |
| | 安 | 庾淑 | (18) | 3 |

迎える日本側はどうか。2年連続4冠王の大洋デパート（熊本）の戦力はいっこうにおとろえていない。ナショナルプレイヤー（世界選手権代表）7人で組むレギュラーはまったくスキがない。

垂水—渡辺の黄金コンビの攻撃力はいぜん健在、ベテラン枝尾の好リード、米、三宅、島田もいちだんと進境を示している。しかも後続の小林、村中、蔵田らも伸びており層の厚さも抜群。GK小原の好守と合わせて、他チームはいかにこの不動の堅陣を崩すか、頭が痛いにちがいない。

世界選手権へ行くレギュラー7人は規定でこの大会以後国内試合に出場できないために、どうしても優勝の置きみやげをしておきたいところ。新シーズン開幕後まだ日が浅く、他チームの戦力がもう一つ未調整なことを勘定にいれると大洋デパートの3連勝、12連続全国大会優勝の偉業達成はまちがいなさそうである。

大洋デパートの連勝をストップさせるとしたら東京重機（東京）だろう。永い苦斗の球史を刻みながらついにトップへ躍り出るチャンスがめぐって来た感じ。

滝口、牧野、古佐原の世界選手権代表トリオを軸にGK長岡、鷲谷、村上、市川ら安定した攻守を誇る。全員にプレーの自信がのぞかれるのも〝武器〟だ。波にのったような勢いがないと打倒・大洋は成らない。東京重機にはその期待が大いにかけられる。

この両者を追って日本ビクター（茨城）とブラザー工業（愛知）。

日本ビクターは結成2年目。有力新人を加えて張り切っている。

攻守の中心は八重樫、阿保、蓮見妹のほか新人の谷沢、富山（ともに水海道二高）、高野（笠間高）らになりそうだ。谷沢と富山は昨夏のインターハイ優勝コンビ。好素質の選手だ。蓮見姉、江川の両ベテランもエントリーしており、要所で巧技を示すことになるだろう。

ブラザーの好調は面白い。シャープな金村を新主将に藤浪、山田、長塚、藤田、GK佐藤ら〝チームとしての成長度〟は参加チーム随一といえる。

5月の東海実業団では田村紡を連破して優勝したが、大洋紡（岐阜）に一敗するなど試合運びに若

さがのぞくのが不安。波にのれば逆に手強い存在となるわけで大洋デパートも楽観は禁物。新人の中には原川(島原農)、森本(広島一女商)といった成長株もいる。

あまり景気のよい話が伝わって来ないのは大崎電気(埼玉)と田村紡(三重)。

大崎は大黒柱・木幡が退社したうえ残った主力が故障つづき。福本監督もシーズン初めにはすっかりサジを投げたカッコウで、ようやく最近になってまとまった練習を始めた。しかし三浦、寺尾と二人の世界選手権代表に鋭さが増しこのほか新島、佐藤、長谷川、岩井GK和田らを揃えた布陣は安定感では大洋デパートにつぐものとみる人も多い。一試合ごとに調子をあげていくようだと控えに人を欠くとはいえやはり優勝戦線からはずすことのできない〝実力派〟であろう。

田村紡は完全に持ち駒不足。エース三毛(世界選手権代表)がマークされると動きがとれない。東海実業団のタイトルまで手放してしまった(5月・名古屋)。GK久保、金田、久保田、辻、広森、知念らの奮起を待ちたい。

堅実な歩みをつづけるムネカタ(福島)と大洋紡は強豪にはさまれて苦戦はまぬがれそうもないが、上位との差ははっきりとせばめらたている。

特に大洋紡は山根、平野のコンビを中心にチームの調子は上向きで白花を破ってベストシックス入りに斗志満々である。ムネカタは伊賀を主砲にした攻撃力のデキがカギ。

ところみてくると順当ならベストシックスへ勝ちあがるのは大洋デパート、ブラザー工業、東京重機日本ビクター、大崎電気がまず固いところで白花醸造—大洋紡の勝者が残る一つの座を争おう。

第1日にダブルヘッダー、第2日以降4連戦というスケジュールを考えると持ち駒豊富な大洋デパート—東京重機の対決から大洋有利と予想したい。

【女子組み合せ】

▽予選リーグA組
- 大洋デパート(熊本)
- ブラザー工業(愛知)
- ムネカタ(福島)

▽同B組
- 東京重機工業(東京)
- 大洋紡(岐阜)
- 白花醸造(韓国)(オープン参加)

▽同C組
- 大崎電気(埼玉)
- 田村紡(三重)
- 日本ビクター(茨城)

## 男子

【試合方法】予選リーグのあと各組上位2者=ベストフォアが決勝リーグ、下位2者が5〜8位決定リーグを行う。この場合予選リーグの記録はそのまま適用される。

※

男子実業団の予想も難しくなったものだ。一昨年までは大崎電気(埼玉)の独走、大会の興味はつねに2位争いだった。

それが三景(東京)の充実、ワクナガ(大阪)の誕生、大同製鋼(愛知)の飛躍でがぜん白熱して来た。

今年はその火がいっそう燃えあがろう。〝実業団時代開幕の年〟とはある記者の言だが、たしかに男子実業団の陣容は華やかでたくましくなって来ている。

決勝リーグに進出するチームからみてみよう。A組ではワクナガ不動として、三景×本田技研(三重)は予断を許さない。三景は喜田、武井、高梨、内藤、山原と定評あるテクニシャンをズラリと並べたところに植田(中央大)を加えた。学生界のリード・オフ・マンとして定評のあった選手。本田はここ一、二年スランプだったが大下、小川、末岡らに田中、宮川の日大コンビ、勝田(名城大)、GK戸田(中京大)らを加えて、再び全国最上位を狙う態勢の建てなおしを企った。新加入の4選手はいずれも個性豊かで田中、勝田のシャープなプレーは大きな戦力である。三景のスピードプレーと変化にどう挑むか、好勝負となろう。

B組は大同—大崎の両者が他の二者をおさえよう。このカードは直接優勝争いにもひびいてくるだけにみのがせない。

大同の張りきりかたはすごい。野田、藤中、中井(同志社大)のオリンピック候補トリオ、GK柳川の好守、加藤の柔軟な攻撃力。誰もがここ一番の勝負に強く、その積極戦法は地元ファンを熱狂させるだろう。

今春、10連ぱを阻まれた大崎もそのまま黙ってはいられまい。有力新人のいない淋しさはあるが、谷口、佐藤、沢田、林らの成長で厚味が再びでて来た。近森のカムバックも大きい。それにGK下里近藤、東、飯田(いずれもオリンピック候補)。近森が10カ月ぶりに〝自分のチーム〟でどのようなプレーを見せるか。一つのみどころだ。

彼の動きと巨砲・飯田のデキが10回目の優勝のカギとみたい。

【男子組み合せ】

▽予選リーグA組
- ワクナガ薬品(大阪)
- 三景(東京)
- 本田技研(三重)
- ○ セントラル自動車(神奈川)

▽同B組
- 大同製鋼(愛知)
- 大崎電気(埼玉)
- ムネカタ(大阪)
- ○ 住友化学菊本(愛媛)

○印はトーナメント勝者

注目のワクナガ。もちろん2連勝に自信満々。メンバーは不動である。市原、木野、早川、高橋、森、戸田、GK今井。セットと速攻の使い分けも群を抜いているし守りの固さも一番だろう。韓国遠征(6月)から帰って、「今シーズンの誓い」も新ただ。188㎝の新人・阿波(広島商大)の登場も話題となろう。「2年後ぐらいに目標をおき、じっくり育てたい」というのがチームの方針だが、本場なみのスケールの大きい選手の輩出は楽しい。

順当ならワクナガ、大崎、大同の激突。1点がモノをいう大接戦がつづくだろう。互いの手の内は充分すぎるほど知りつくしているし〝奇策〟も通用しまい。堂々の四つ相撲から斯界最高内容の大会となろう。田中実連理事長は冗談まじりに「日本実業団リーグの実業団という文字を早く取り除きたい」というが〝日本リーグ〟実現への大きなステップに今年はなり得るのではなかろうか。

なお、4強の座を狙う他チームは、古参のムネカタ(大阪)が村上、平瀬、古閑ら主力に変動はないものの持ち駒不足、6月のトーナメントから勝ちあがって来た住友化学菊本(愛媛)、セントラル自動車(神奈川)の両チームもいささか苦しい。セントラル自動車は攻撃力は見るべきものに成長したが、ディフェンスの問題は解決していない。住化は加藤への依存度がへり、チームプレーを主体とした好チームに脱したが、上位を狙うにはいささか力不足。

―IHFコーチシンポジウム報告④―

# マンツウマン・ディフェンス

ヴエルナー・ヴィック（西ドイツ）
抄訳　竹野奉昭（全日本男子コーチ）

## マンツウマンの重要性

マンツウマン守備のなかには、良いそしてフェアな守備をするために個人として必要なあらゆる技術が含まれている。

これをマスターすることは個人技術の上では必須のことである。

特に青少年にこれを教え、正しい守備を体で覚えこませるのはきわめて有効な方法である。

守備の基本に忠実でなければ、すぐに破綻が生ずる。

マンツウマンを成長期にじっくりとたたきこんでから、ゾーン・ディフェンスをやるというのが本当の形であろう。

## マンツウマンの基礎

マンツウマンにはあらゆる守備技術が含まれており、これのどれが欠けていても、すぐに破綻をきたす。

まず常にマークする相手の利き腕側に位置し距離をてきとうに保ち、そしてマークするボールに注意し、その行方をしっかりと見さだめる。相手の進行方向を予知し自由には走らせないというようなもっとも守備者として基本をなす事項が基礎に含まれよう。

では、実際にどのような練習によって、これらをマスターしていったらよいのであろうか。

ここで青少年にマンツウマンをマスターさせる一つの例をあげてみよう。

**1　ボールカット**

a)　相手に前から近づきもっているボールをカットする。

はじめはゆっくりと走る相手に前から近づく、しだいに速度をあげる。

ボールをもっているものは守備者のすぐ左右を走るようにする。

またドリブルのリズムにもなれさせるようにする。慣れるまではドリドルのリズムはかえないで、慣れてきたらドリブルのリズムを変えて、更に慣れてきたなら、ボールをもっているものは体によって、ボールを護るようにして、実際に近づける。

b)　サイドから一緒に並行に走りながらa)と同様のことを練習する。

a)同様の注意にしたがいながら、

**2　相手と一緒に動く**

a)　ツメル（いわゆるピストン）

タイミング良く、相手の利き腕に触れるぐらいにつめる。

最初は広く離れていてもしかたがないが、できるだけ相手との距離をつめる。

b)　ポストを動く相手とともに動く。（エリアに平行もしくはゴールに平行に）

この際、すべての動作、ストップ・ターン・体のひねり・回転などを駆使し、相手の動きに完全につき、しかもいつでも相手の利き腕についていること。

**3　パスもしくはシュートされんとするボールに対する防禦**

a)　相手に対して正面からツメ、ボールをカットする。

b)　最後の手段として正に投げられんとするボールに対するカットがある。この限界はきわめて微妙で、ルールの限界をしっかりと知って、プレーしなければならないが、最後の手段としてはきわめて、重要な防禦手段であるので、フェアプレーの限界を知り、十二分に練習をして、初めて完成された、技術になるものである。以下のことは許されている。

パスまたはシュートで手を離れてしまったボールに対してはあらゆる方向からのカットが許される。

正面から保持されているボールに対して

側面からねらう場合には、必らず片手で

## 時間的に見たマンツウマン

マンツウマンはしばしばゲームの終局に至って、敗けているチー

ムが、相手から早くボールを奪うためにとる手段である。

一試合中、このマンツウマンをとるチームもあるが、体力的な消耗が激しいため、得策ではない。

1　何時マンツウマンを始めるか

2　どのような形のマンツウマンをとるか

3　どのプレーヤーをどの相手にあてるか

4　相手はマンツウマンをとられてどの程度慌てることが予想されるか

5　その試合のレフェリーがマンツウマンに対して、どのような考え方をもっているか

この五つの点がマンツウマンをとるのに重要なポイントとなってくる。

**1)　いつマンツウマンをとるか**

a)　何点まけているか。まけが大きいほど早い時期にとることが望ましい。

b)　相手と味方の能力はどうか

この二つの要素があるため、にわかには決め難いが、かなりの差がある場合にでも、完全な形のマンツウマンは終了4・5分前から開始すべきである。

**2)　どのような形をとるか**

a)　完全に6人のマンツウマン

b)　5人がマンツウマン、1人が最終ラインに残る。

c)　1人が完全にマンツウマン、残る3人が限定されたマンツウマンを行ない、2人が残る。

a)の場合、効果も大いが、危険も大きい。1点リードされていて、最終局面で相手がボールをもっている時にしくべきである。

b)の場合、2、3点リードされている局面で、数分間しくのが良いと思う。この場合、一人のフリーな人間がパスできないで、キーパーに授けを求めることがある。この時には、キーパーの攻撃能力が問題になってくる。ドリブルの巧みな相手にボールを渡してはならない。

c)の場合、どこまでを限定するかもきわめて難しい。積極的な防禦活動ということにもなろう。これらがうまくいけば、ストーリングにより、相手は退場になり、その上ボールを得ることができる。

**3)　どの相手に誰をあてるか**

一度マンツウマンをとることを決めたならば、従来の守備と攻撃の関連性は全くこわしてかからなければいけない。攻撃のみの選手と呼ばれる選手は直ちに守の選手に交替させないととり返しのつかないことになる。できることならボールが味方に移ったら、すばやく守の選手と攻の選手を交替させ逆の場合もそれをくり返すことが望ましい。もっとも体力があり、技術のあるものを相手のトッププレーヤーにつけることが常識である。

4)は、相手がマンツウマンの体験があるか、相手のゴールキーパーの攻撃能力は、ドリブルの名手がいるかなどが重要なポイントとなってこよう。

5)については、いささか問題のある設問ではあるか、きわめて重要である。常々の試合遅延に対してレフェリーがどういう態度をとるかを日常観察しておくことが重要であろう。それとともに、トップクラスのプレーヤーのプレーに習熟しているかどうかもポイントとなる。審判思想においては共通とはいいながら人間である以上、ニュアンスの差はある。

以上の点を合せ考え、いつ、どのような形とのマンツウマンをとるかが重要な鍵となる。

目的はすばやくボールを自己の手中にし、点差をつめるということである。この目的にそうようにチームの能力の中で解決していかなければならない。

**ゾーンディフェンスとの組み合せ防禦**

これは良く見られるものであって、後にネデフ氏によって語られるので詳しくはそちらにゆずるが一応触れておこう。

通常これをとる場合には、一人が相手のゲッター、もしくはチャンスメーカーにつき、あとはゾーン防禦をする。各国でも行なわれているので、要点のみにするが、この場合、マンツウマンを行なう一人は、非常に多くの距離を動き廻るので、体力抜群である必要があると同時に、精神的に安定し、フェアプレーに徹し、技術はいうまでもなく、抜群である必要がある。

それとともに、とかく見られるのは、マンツウマンを行なっている1人とゾーンを行なっている5人が全く遊離した動きをしていて、マンツウマンの1人が抜かれると守備は全くガタガタになってしまうことがあるが、あくまでも6人で防禦していることを忘れずに、コンビをとって守るという鉄則にたたねばいけない。

マンツウマンは守備の基礎であり、個人の能力をたかめる。

☆　☆　☆

ここのところ、ニュース的な記事が常に満載されてしまって、連載ものをのせるスペースがなく、このＩＨＦコーチシンポジュームも、ハンドボールの歩みもずっと休載していました。

このコーチシンポジュウム報告も82号（70年12月号）に③を掲載して以来、半年も休載してしまい訳者の竹野氏をはじめ、読者のみなさまにも、たいへん御迷惑をかけたことをお詫びします。

ハンドボールの歩みもあと二・三回で終了のつもりが休載続きで申し訳なく思っています(編集部)

報告

# A級、B級公認審判員審査会

安藤純光
（日本協会審判部長）

レフェリーの審判技術の向上と統一性を高めることを目指して、審判部はここ数年の間にいくつかの新らしい施策を研究し、実施に移してきた。去る5月21・22・23日の3日間にわたって、オリムピック記念青少年総合センターにおいて行なわれたA級・B級公認審判員の審査も新らしい施策の一つである。

従来の審査は、手帖・申請書などの書類による審査であった。公認審判員になるということは、形式上の資格をもつことではない。

実際に笛を吹くために、競技規則を運用して競技を運営できる能力が備わっているかどうかが審査されるべきであることはいうまでもないことである。従来の方法の中でも、これらの点について考慮がなされたことは勿論である。しかし、レフェリーとしての経験数であるとか、資格を取得してからの経過年数であるとか、審査委員のもっている申請者の審判技術に対するイメージなどが審査の資料となっていた。これでは実質のともなった審査は不充分であり、形式的であったといわざるを得ない。レフェリーの審判技術が云々される原因の一つは、ここにあったともいえる。

今回A級・B級に対する審査を2泊3日の日程で実施したのであるが、このような実質的な審査の必要性は早くから論ぜられていたのであるが実現の機会がなかった。しかし、おそきに失したとはいえ、今回新らしい審査の方法にふみきったことによって、審判技術のレベルアップと統一性を高める一つの路が開けたものと思う。

以下に今回のA級・B級公認審判員審査の内容について概要を報告する。はじめてのことでもありペーパーテストの問題の作成、実技テストの方法・評価などになお研究を要する点があった。

◇審査会日程

▽第1日（5月21日）10時30分 挨拶・荒川理事長、「審判の心がまえ」安藤審判部長、「競技規則の解釈」稲石審判部委員、「競技規則適用の実際」山田審判部委員「質疑応答」（審判部側・嶋田委員）15時45分「ペーパーテスト」

▽第2日（22日）9時「実技テストⅠ」13時「実技テストⅡ」19時「質疑応答」

▽第3日（23日）9時「実技テストⅢ」、13時「実技テストⅣ」16時30分閉講式

（注）「ペーパーテスト」の内容は別掲

◇参加者氏名（順不同、敬称略）

▽A級受験者（10名）森恭一（宮城）、関川正道、熊田栄一（以上福島）、大塚文雄（東京）、大橋昭重（静岡）、寺村新悦、北川祐之（以上滋賀）、藤本昇（京都）、横瀬正寿（山口）、小田英俊（福岡）

▽B級受験者（22名）、吉沢正登（北海道）、山下勝司（栃木）、柏葉義昭（茨城）、上久保重次、北井晴次（以上埼玉）、藤原侑（東京）、宮田紘郎、寺崎一夫、旅逸郎、山口吉弘（以上富山）、槇田興二（山梨）、吉田定静（静岡）、小林清通（愛知）、楠戸榛也（岡山）、東昌弘（広島）、高木敏行（鳥取）、浦力、原田国男（以上長崎）、山本忠嗣、古市寿市、橋口吉国、蒲山尚志（以上鹿児島）

◇ 実技テスト

日体大学生および受験者によってモデルゲームを行ない1ペア30分あてレフェリーを行なった。

（注）実技テスト評価表は別掲

受験者諸氏は終始非常に真剣な態度で審査を受けた。そのあまりに実技テストで、日頃の技術を充分に発揮できなかったと思われる人もいた。競技を審判する場合には、プレイヤと同様に真剣な態度でなければならないことは勿論であるが、緊張のあまりに判定が正しさを欠くようなことがあれば、これまた許されることではない。また非常に明瞭に、テキパキと競技を運行したペアーもあった。審査だからということで、よそ行きでないことを祈る。

さすが自費を投じて上級を受験しようという意欲旺盛な人々の集りであり、全期間を通して真剣さとハンドボールへの情熱がみなぎり強い感銘を受けた。

審査の結果は後日各所属都道府県協会宛に報告するが、受験された各位は、初の実質的な審査を受けてのA級・B級になるのであるから正しい自負と責任をもって以後活躍されることを祈る。そしてますます技術の向上を目指して努力されることを併せてお願いする。

「受験者のみなさん、ご苦労様でした」

おわりに氷海主将以下日体大ハンドボール部員の諸君のご協力に紙上をかりて感謝する。

実技テスト評価表

級

| 県名 | | 氏名 | | |
|---|---|---|---|---|
| ／ | 項　目 | 評価 | 評価 | 備考 |
| 身体診断 | 走力・フットワーク | 54321 | 54321 | |
| | 敏捷性 | 54321 | | |
| 精神診断 | 決断力 | 54321 | 54321 | |
| | 気力 | 54321 | | |
| | 判断力 | 54321 | | |
| | 態度 | 54321 | | |
| 管理診断 | 施設，用具 | 54321 | 54321 | |
| | 選手全搬 | 54321 | 54321 | |
| | 得点 | 54321 | 54321 | |
| | 救急処置 | 54321 | 54321 | |
| 審判技術診断 | ホイッスル | 54321 | 54321 | |
| | タイミング | 54321 | | |
| | ジャッジ | 54321 | | |
| | 方向指示 | 54321 | | |
| | アドバンテージ | 54321 | | |
| | 規則理解度 | 54321 | | |
| | 公平度 | 54321 | | |
| | 判定基準 | 54321 | | |
| | 運行度 | 54321 | | |
| 総評 | | 評価点 | | |

## 安藤、勝両部長沖縄へ

日本協会は沖縄体協からの要請で審判、技術指導講習会の講師を沖縄へ送ることになり、まず安藤純光審判部長を6月19日～21日の3日間派遣した。

つづいて、8月23日～28日の6日間勝繁夫技術指導部長を同地に送る。

## 昭和46年度　A級・B級公認審判員審査試験問題

〔A〕 次の文章の正しいものに○を，間違っているものに×をつけよ．（GK＝ゴールキーパー，FP＝フィルドプレイヤー）

□ 1　競技場の各ラインの境界は，そのラインの外側である．
□ 2　如何なる場合でもGKはFPのかわりはできない．
□ 3　スローオフは直接得点することができる．
□ 4　競技中断によって失なわれた時間は，両チームの主将に知らせる必要がある．
□ 5　最後の一投とは7mスロー，フリースロー，コーナースローである．
□ 6　横たわってボールをプレイし続けることはよい．
□ 7　シュート後そのFPがゴールエリア内にいるとき，攻撃側の他のプレイヤーが，エリア内からフィルドにもどったボールをプレイすることはできない．
□ 8　ゴールスローは，フリースローライン内でカットしてもよい．
□ 9　ボールを味方のゴールエリアへ投げ返したとき，GKにもふれずにゴールラインを越えて競技場を出たのでコーナースローとした．
□ 10　GKがゴールスローをして，他のプレイヤーにふれる前にゴールエリア外（フィルド）に出て再びボールを扱うことができる．
□ 11　GKになったFPは，いつでも再びFPにもどることができるし，また再度GKになることもできる．
□ 12　ゴールスローのとき，GKの投球モーションが大きく，GKの手にあるボールがゴールのゴールラインを完全に通過したので相手側に得点をあたえた．
□ 13　GKがFPと交代するときレフェリーに通知する必要はない．
□ 14　ボールをもってサイドラインを踏み越したので，その地点でフリースローを行なった．
□ 15　退場を命じられたプレイヤーの退場時間が終り，そのままベンチにいて，他のプレイヤーが交代して入場したので不正交代である．
□ 16　警告，退場などで中断して競技を再開する場合には，その都度笛を吹く必要はない．
□ 17　コーナースローを行なうプレイヤーは，ボールが他のプレイヤーまたは競技用具にふれた後でなければ再びボールにふれることはできない．
□ 18　プレイが中断しない場合の退場時間の計時は，退場を宣告したときからである．
□ 19　ころがっているボールをくりかえし片手でころがすことはよい．
□ 20　サイドライン際でボールをキャッチして，ボールを投げようとしたとき，その手にあるボールがサイドラインを完全に越えたので相手チームにスローインをさせた．
□ 21　GKがシュートされたボールを身体ではじきゴールエリア外の競技場に出たが，このボールにはフィルドプレイヤーがふれた後でなければGKがふれることはできない．
□ 22　負傷者が重傷であっても，一連のプレイが終るのをまって中断しなければならない．
□ 23　競技を開始するにあたって，各チーム最低6名のプレイヤーが競技場内にいなければならない．
□ 24　コーナースロー，スローインのとき攻撃側のプレイヤーは，相手側のフリースローライン内にいてはいけない．
□ 25　スローインのとき，片方の足が地面（床）からはなれたので相手チームにスローインをさせた．

〔B〕 次の文中の □ を適切な語句で埋めよ．（CR＝センターレフェリー，GR＝ゴールレフェリー）

1　競技場は長さ□m～□m，巾□m～□mの短形である．標準の大きさは長さ□m，巾□mである．
2　6名で競技を開始し，7人目のプレイヤーが競技場に入る場合は□と□に申し出なければならない．
3　プレイヤーの不正交代が再び行なわれた場合には□の□で罰する．
4　規定時間より早く終了の笛が吹かれ，プレイヤーが大部分未だコート内にいたとき，ボールが場外にあった場合には□，□または□によって再開する．

5　攻撃側がシュート直後に防禦禦側に対して身体接触をした場合
(1)　ゴールイン……[　　　]　(2)　キーパーボール……[　　　]　(3)　その他競技中……[　　　]
6　室内の天井もしくは設備にボールがふれておちてきたときの処置について
(1)　サイドライン外におちたときには最後にふれた反対側の[　　　].
(2)　フィルドに落ちたときは[　　　].　(3)　ゴールエリア内におちたときは[　　　].
(4)　ゴールラインのうしろにおちたときは最後にふれた反対側の[　　　].
7　予備のボールは[　　　]が管理する.
8　競技開始には各チーム最低[　　　]名　がいなければならない.
9　退場させられているプレイヤーが入場して7mスローを行なった場合には，スローを行なったプレヤーは[　　　]となる.
10　レフェリーは競技前[　　　]の状態を検査する．レフェリーは競技を[　　　]する．また競技を[　　　]しあるいは[　　　]する権限をもっている.
11　不正交代の場合　(1)[　　　]　(2)[　　　]　(3)[　　　]　(4)　以後その都度[　　　]の退場となる.
12　7mスローを行なう際にはプレイヤーが正しい位置にいることを[　　　]してスローを行なわせる.
13　規則に反する判定に対しては[　　　]のみ抗議することができる.
14　レフェリーへの誹謗は次のように罰する.
(1)　競技前の場合は，当人は[　　　]となる.
(2)　休憩中の場合は，当人は[　　　]となる.
(3)　競技中の場合は，当人は[　　　]または[　　　]となる.
(4)　交代プレイヤー（ベンチ）の場合は，当人は[　　　]となる.
15　退場時間終了後出場するプレイヤーは[　　　]の指示にしたがわなければならない.
16　ストーリングが戦術として使われた場合.
(1)　[　　　]
(2)　再度くりかえして行なわれたときには[　　　].
(3)　さらにくりかえして行なわれたときには[　　　].
17　同一チームに対する判定でCRがフリースロー，GRが7mスローとして判定した場合の罰則[　　　]はである.
18　GRはAチームのフリースロー，CRはBチームのフリースローと判定した場合の罰則は[　　　]の[　　　]である.
19　キーパーボールのときゴールエリアに入って妨害した場合には[　　　]で罰する．ゴールスローをエリア内で妨害した場合には　(1)[　　　]　(2)[　　　]させる.
20　ボールがコーナーから出た場合，攻撃側が出せば[　　　]，防禦側が出せば[　　　]である.

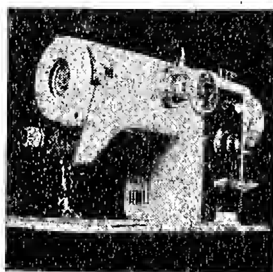
〔C〕　次の問に答えよ.
1　競技中負傷者が出て重傷であると判断し競技を中断した．そのときボールは競技場外にあった．競技再開の方法を記せ.

2　GKが退場もしくは追放されたときの処置を記せ.

3　12名以外の登録者が，その競技に出場したことが判明した場合の処置について記せ.

4　ボールがレフェリーに当ってサイドラインを越えたときの処置について記せ.

5　レフェリーの責務について記せ.



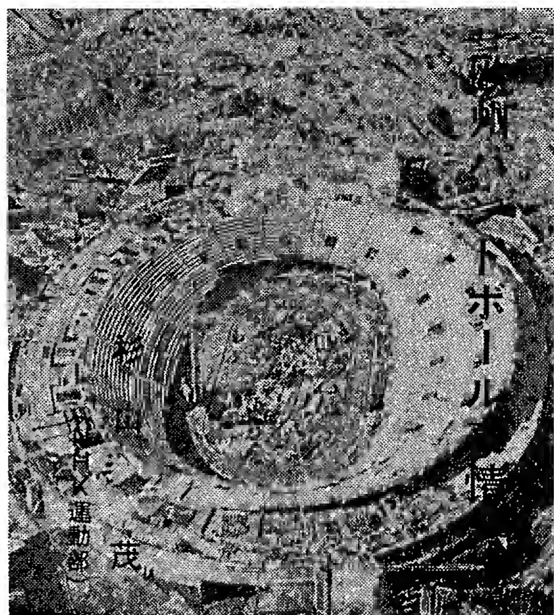


# 鍛えぬかれたフォームにこそ、メカの真髄がある

■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

ジューキ

東京重機工業株式会社




男子諸国の動向に目をうつしてみよう。これはもうどの国もはっきりと「ミュンヘン」が照準である。（カット写真は完成を急ぐミュンヘンオリンピック室内大球技場＝ハンドボール決勝会場）

ミュンヘン行きをすでに決めている8ケ国（昨春の世界選手権ベストエイト＝ルーマニア、東ドイツ、ユーゴ、デンマーク、西ドイツ、スウェーデン、チェコ、ハンガリー）はとりあえず落ち着いた表情をみせ、メダルを狙ってのかけ引きにわずかな動きを見せたにとどまっている。

このうち、今シーズン悪い材料ばかり揃ってしまったのが開催国の西ドイツだというのは皮肉な話。

シーズン早々、至宝ルブキングが住みなれたGW・ダンケルセンからTV・ネッテルステットに移った。裏面でルブキングに「重大なアマチュア違反があった」として西ドイツ協会は彼をナショナルチームからはずしてしまう〝事件〟が起きた。

この一件が尾を引いたわけでもあるまいが、前半はともかく年の明けた後半戦における西ドイツの試合ぶりは低調で3月のデンマークトーナメントは1勝2敗、ハンガリーに1勝1敗、ポーランド、スイスにも苦戦している。

わずかにグンメルスバッハ（4月来日）がヨーロッパカップに2連勝したのがファンにとっては明かるいニュースといえたが、そのグンメルスバッハもチーム内のトラブルで大チームの面目を失いかけているとの噂さがしきり。地元に迎えるオリンピックまでに西ドイツはどうやって立ち直りのキッカケを摘むつもりだろう。注目されるところだ。

### イスラエルの動き

日本のファンがもっとも気になるイスラエルの動きはどうか。

はっきりと「打倒・日本」を目的にして強化のための遠征を行った。

筆者の知り得たスコアは、

オランダ　19—14　イスラエル
オランダ　13—11　イスラエル
フィンランド18—14　イスラエル

の3試合。

このほかデンマーク、オーストリアなどを招いて4月に国際大会を開く計画があるとのことであった。また世界学生（4月・チェコ）へ初めて代表チームを参加させているのをみても、イスラエルがミュンヘンを目指し積極的な活動をしていることが判る。

しかし、前述のオランダもフィンランドも実力はBクラス。「日本優位」と判断する材料であるといってよいのではないか。

なお国際ハンドボール連盟広報89号（46年4月号）によるとイスラエルには、いぜんハンドボールのできる屋内施設はないようだが4月の大会までには完成予定の体育館があるという情報も聞いた。

### 来春に五輪欧州予選

ルーマニア、東ドイツ、ユーゴらトップクラスは、むしろ平凡なシーズンを送ったようで、わずかにユーゴがナショナルチームにかなり若手を注入したと伝えられたのが気になった程度である。

今シーズンの欧州球界の中心は、オリンピック・ヨーロッパ代表五つの座を狙う各国、いわゆるAクラスの下位とBクラス上位にランクされる国々であった。

来年3月スペインで行われるヨーロッパ予選にエントリーしているのは16ケ国、ソビエトの優位は動かしがたいといわれており、15

**ミュンヘンオリンピック**
**ヨーロッパ予選組み合せ**

▽A組　アイスランド、フィンランド、ノルウェー、ベルギー
▽B組　フランス、オランダ、オーストリア、ブルガリア
▽C組　スイス、スペイン、ルクセンブルグ、イギリス
▽D組　ソビエト、ポーランド、ポルトガル、イタリア

各組上位2国が準決勝リーグ（2組）に進みそのあと順位決定戦。

ケ国で4つのイスというのが一致したみかた。その候補にはアイスランド、ノルウェー、フランス、オランダ、スイス、スペイン、ポーランドがあげられており、わずかの差でオーストリア、ブルガリアがつづく。各国コーチングスタッフも交流試合のたびに文字どおり一喜一憂している、といってよい。

## フランスら激戦の様相

すでにヨーロッパ予選の組み合せは発表され（前掲）B組にフランス、オランダ、オーストリア、ブルガリアが固まってしまった。

壮烈な試合が展開されることは間違いなく、4協会とも互いに力の探りあいがすさまじい。

それならばいっそ正面からぶつかりあおう、というわけか昨年末オランダにフランス、オーストリア、オランダ（ほかにフインランドも参加）が集って大会を開いている。

各国とも選手団について情報班研究班がくりこみフイルム、ヴィデオ撮影のシャッター音が絶え間ないなかでリーグ戦。オランダ、フランス、フィンランド、オーストリアの順に終った。

3国ともこの結果にあきたらずフランスはシーズン終盤、オーストリア、ブルガリア遠征を行い、

フランス　15―13オーストリア
フランス　14―13オーストリア
ブルガリア　16―10　フランス
ブルガリア　10(分)10　フランス

となり、オランダもオーストリアへ出かけ

オランダ　18―16オーストリア
オランダ　17―10オーストリア

の成績を残した。オランダはこのほかハンガリー、チェコと各2試合を戦ったがいずれも連敗、トップクラスへの〃壁〃をはっきり感じさせている。

## 張り切るスペイン、スイス

アジア、アメリカ、アフリカ3大陸の国々も集めて〃世界一区〃のオリンピック予選を開こうと強調、その場合に自国開催とまで張り切ったスペインはフランスにのりこんで13―11、16―14で連勝した以外、思ったより動きのないシーズンであった。

しかし、主将のモレラ（1m80）の24才が最年長という若々しい布陣は着実にその力を伸ばしているようで、世界学生でも堂々4位に食いこんでいる。

もともとスペインは年少者向きに「ミニ・ハンドボール」を考案したり、ジュニア対策に大きな努力を払っている国でもあり、欧州きっての〃成長株〃といえないこともない。

スペインと予選でぶつかるスイスも元気。特に3月、西ドイツに13―19、15―16とせりあったのは来シーズンへの自信を深めさせるのに役立とう。

主力はノッター（1m74）、サンティニ（1m73）、ギガス（1m76）モレール（1m75）と変わっていない。フランスとは9―11、10―9の互角。

## 巻き返し企るノルウェー

ノルウェーのカムバックが話題になっている。昨年の世界選手権で強豪にはさまりながら善戦、当時のメンバーが揃ってミュンヘンに向かっている。グラバー（1m87）、アンクル（1m93）、カペレン（1m93）、ハンセン1（m86）らの長身アタッカーだ。

もともと実力のあったノルウェーに、Bクラスの烙印をおしたのは日本である。第5回、第6回と連続して世界選手権で勝ちノルウェーはすっかり〃日本ショック〃。メンバーを総入れ替えして上位への返り咲きに懸命になっていると伝えられたものだ。特に目立ったのはワールドチャンピオン・ルーマニアに8―12、9―10と善戦した2試合、デンマークを15―14で降した一戦だろう。

アイスランドの評判もいい。なにしろ同国ではフットボール（サッカー）につづく人気。たまたまプラハのレストランでアイスランド人と隣りあわせたが、そのハンドボール通なのにはおどろいた。世界の名手の名をスラスラ並べたあとアイスランドのハルスタインソン（1m85）、O・ヨンソン（1m90）、マグヌソン（1m96）らがいかに秀れた攻撃者かぶちまくられた。

世界選手権の最長身者スパバルソン（1m98、91K）もどうにかチームプレーに溶けこんで来ているらしい。彼は20才になったばかりのハズである。ルーマニアをレイキャビックに迎えた2連戦は一万に近いファンを集め14―14、18―22であった。

## 五輪で一気に脚光を

ともかくどの国もオリンピックへの関心は驚くべきほど強い。

チェコのベテラン・マレスをプラハの練習場に訪れた時、彼は熱っぽく「ハンドボールが世界のスポーツとして改めて認識される時が来るのだ。各国が競いあって秀れたチームをミュンヘンを送ろうとしているのはまったくすばらしいことだ」と話してくれた。

オリンピック実施を機にこれまでの努力の花を一気に咲かせようというのが各国関係者共通の願いであり狙いでもある。

ハンドボールの本場としてしっかりとした地盤を築いているヨーロッパ諸国でさえ、オリンピックに対する期待はこのように高いのである。日本国内のムードに今ひとつ物足りなさを感じるのは、やはりそこが「本場と孤島の差」なのだろうか。

## 確立されてる本拠地制

筆者の見聞した範囲で意外に思ったのはヨーロッパには日本のような大規模な体育館が数えるほどしかないことである。その代わりハンドボール専用ジムは羨しいほど沢山ある。多くはスポーツクラブの持ちものだが、国内リーグなどはほとんどこうしたコートが使われる。日本のように数チームを時には30チーム以上も一堂に集めて大会を開くなどまず考えられない。関東学生リーグを一例とすれば日体×中央の場合は日体、芝浦×法政は芝浦でまず1回戦を行い2回戦は相手のコートというのが常識的な運営だ。言葉を変えれば本拠地制がしっかりしているのである。入場料収入は原則としてホームチーム（コート提供側）が純益の30～50％を受けとるようで、人気カードになると増収を企って大きな会場を探すケースもあるらしい。

西ドイツの全国リーグ決勝戦ダンケルセン×ギョッピンゲンには一万二千五百人のファンがつめかけたが、会場はヨーロッパカップの決勝と同じドルトムントのウェストハーレンホールが使われてい

る。

クラブのもつコートの規模は小さい。たいてい観客席は一方だけで収容力は千人〜二千人程度だ。スポーツ紙などで観客数をみてみると700とか850などとあり少いように思えるが、一応どのようなゲームでもスタンドは七〜八割のファンで埋められていることになる。

これが国際試合になると最低二、三千人を収容する会場が使われる。今シーズン、ヨーロッパのファンを平均して動員していたのはナショナルマッチよりもむしろヨーロッパカップ（男子）の各カードであったようだ。



ヨーロッパカップ優勝のグンメルスバッハを迎える市民の熱狂

## 人気高いヨーロッパ杯

トップクラスのナショナルチームが今シーズンは調整期と割り切っていたせいもあるが、棄権したデュクラ・プラハ（チェコ）を除いては有力クラブが順当に勝ち進んでいっそう盛りあがった。

本拠地におけるクラブへの人気は熱狂的だ。遠征にはファンがバスでついてまわる。ヨーロッパカップ2連勝のグンメルスバッハを迎えた町の興奮はオープンカーの選手たちをもみくちゃにしてしまった（写真）。

また、一国のスタープレイヤーは極端にいえば全ヨーロッパの花形でもある。ルブキング事件を各国の報道関係はかなり大きく伝えたし、フランスの「ハンドボール＆バスケットボール」誌はグルイア（ルーマニア）特集に4ページもさいている。

## 老若男女が親しむクラブ

ヨーロッパスポーツの主流は「クラブ」である。

文字どおり老若男女が好きなスポーツに取り組んでいる光景は〝天国〟にも見える。

ハンドボールの人気は高い。ジュニア男女、成人男女というクラス分けが一般的のようだが、さらに個人のレベルによって区分されている。

成人男子の場合「高度」「一般」「初心者」の3ランクがあり「高度」のメンバーがチームを組んで全国リーグに出るクラブもあるし「高度」のさらに上に「選手」クラスを確立しているところもあるようだ。

グンメルスバッハがこのケース。デュクラ・プラハやステアウア・ブカレスト（ルーマニア）のような軍隊のクラブは「選手」以下のランクが空白で下部はいきなり「ボーイズ」（少年組）である。

一定の年令になるとボーイズから出され、他のクラブに入るわけだ。

施設にめぐまれているとはいえ屋内コートをそういくつも揃えられるわけではない。曜日、時間帯で各クラスに振り当てる。バスケットボールや体操など他種目と併用のケースもたまにはあるし一クラスの占有時間は60〜120分平均だ。

リヨン（フランス）のクラブは二千人収容のスタンドを備えた室内コートのほか10近い屋外コートをもっている。室内を使うのはフランス1部リーグで活躍するASU・リヨンと同2部のASCEM・リヨンのレギュラーと女子のようで、千六百人余の一般・少年会員は屋外コートが多いらしい。

クラブの経費は会員の会費のほか試合収入によって大部分がかなわれるが、稼ぎがしらはやはりどの国もサッカー、チェコやソビエトではアイスホッケー、西ドイツではハンドボールがサッカーにつづくという。単独クラブがナショナルチームと対戦する例もある。1月末ソビエトナショナルを迎えて対戦した西ドイツ側はハンブルグSV、スタット・ハノーバー、SG・ルータースハウゼンなどすべてクラブであり多くの収入を得た。

## 早くも「モントリオール」対策

クラブ同士はトップチームによる全国リーグをはじめとして横の関係でつながっている。

全国（1部）リーグ、2部リーグ、女子リーグ、ジュニア男女……。シーズン最盛期の試合日程はどこもギッシリ。このうちファン動員の対象となるのは頂点の全国リーグであることはいうまでもないが、地方によっては下部リーグもなかなか活気がある。上のクラスを狙って強化に必死なクラブは多く、それがこうじるとルブキング事件になってしまうのだろう。

ジュニア部門育成にも熱が入っている。クラブはもちろん各国協会が実に積極的だ。ジュニアの意味はナショナル2軍的なものと少年組の二つある。

前者は国際試合もヒンパンで4月のラテンカップは参加5ケ国が申し合わせて各国とも2軍で臨んでいる。また一方がレギュラー、一方がB（2軍）という対戦も多い。今シーズンもアメリカ対スウェーデンB、フランスB対ベルギー、オランダB対ルクセンブルグなどが行われた。

後者ではオーストリアでジュニアリーグを地元紙が「一九七六年のオリンピック（注・開催地はモントリオール）を目指すに充分な有望選手が多かった……」と報じているのには驚ろかされもしたし印象深かった。

筆者が滞欧中、ハンドボール関係で「モントリオール」の名を見聞したのはこの1回だけであったが、これはなにもオーストリアに限らないことだろう。ヨーロッパ各国はすでにミュンヘンの次にまで目と力を注いでいるのかと思うとがく然としないではいられない。これが〝本場〟というものであろう。ヨーロッパのハンドボール事情を知れば知るほど、日本のハンドボール界に残された課題のあまりにも多いことを思い知らされるのである。

（完）

# 各地の学生リーグ記録・続報

## 熊本商科大、8年ぶり

### 九州

◇第9回全九州学生選手権（トーナメント）◇5月21〜23日◇西南学院大体育館◇参加14校

波乱の多い大会であった。過去6回優勝の第1シード西南学院が2回戦で熊本商科大に前半押しまくられて敗れ、つづいて有力とみられた昨年春秋首位の鹿児島大が準決勝で九州産業大に完敗。結局決勝は熊本商科大—九州産業大の顔合せとなり大激戦を演じた末、熊本商科大がタイムアップ前貴重な決勝点をあげて優勝を決めた。第1回（昭38）以来8年ぶり2回目。これで熊本商科大は南九州学生選手権についで今シーズン二つ目のタイトルを手にした

▽1回戦

熊本商大 18（10—6、8—6）12 福岡工大
福岡教大 16（10—7、6—4）11 熊本大
九州大 35（20—2、15—3）5 大分大
東海 11（7—6、4—3）9 長崎大
福岡大 不戦勝 宮崎大
九州産大 17（6—7、11—7）14 熊本工大

▽準々決勝

熊本商大 13（5—5、8—4）9 西南学院
福岡教大 29（15—11、14—6）17 九州大
鹿児島大 16（8—3、8—8）11 東海
九州産大 14（6—6、6—6、1—1、1—0）13 福岡大

▽準決勝

熊本商大 13（5—8、8—4）12 福岡教大
九州産大 25（14—7、11—6）13 鹿児島大

▽3位決定戦

福岡教大 22（8—9、14—3）12 鹿児島大

▽決勝

熊本商大 19（8—7、11—11）18 九州産大

### 中四国

#### 松山商大圧倒の攻守示す

◇5月15、16日◇山口大ハンドボール場◇参加1部5校 2部6校

1部は松山商大がミドルポストプレーをうまくこなし、まったく危気ない攻守で他の4校をよせつけなかった。松山商大の優勝は4回目（2季連続）だが今シーズンがもっとも充実した戦力といってよさそうだ。特に東、大沢、島本、木原らの攻撃力はムラがなく鋭い。2部は近畿大呉工学部が不調の岡山大を降して2回目の優勝を飾った。

▽1部

松山商大 26（15—2、11—6）8 広島商大
広島大福山 22（11—3、11—4）7 広島大
松山商大 25（18—5、7—4）9 山口大

| 【山大】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 野口 | 0 |
| | 谷口 | 0 |
| FP | 石田 | 1 |
| | 長田 | 0 |
| | 西岡 | 1 |
| | 楠 | 4 |
| | 米沢 | 3 |
| | 田村 | 0 |
| | 西本 | 0 |
| | 桑原 | 0 |
| | 福田 | 0 |
| | 森部 | 0 |

| 【松山】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 山本 | 0 |
| | 佐竹 | 0 |
| FP | 木原 | 2 |
| | 島本 | 3 |
| | 東 | 11 |
| | 大沢 | 5 |
| | 大山 | 2 |
| | 松浦 | 2 |
| | 赤松 | 0 |
| | 筒井 | 0 |
| | 上野 | 0 |
| | 西川 | 0 |

25（0）7MT（0）9

広島大福山 24（11—4、13—7）11 広島商大
山口大 22（7—4、15—1）5 広島大
山口大 13（8—5、5—7）12 広島大福山
松山商大 20（11—3、9—3）6 広島大
山口大 22（9—8、13—1）9 広島商大
松山商大 20（6—6、14—3）9 広島大福山
広島大 16（10—6、6—9）15 広島商大

【順位】①松山商大4戦全勝②山口大3勝1敗③広島大福山分校2勝2敗④広島大1勝3敗⑤広島商大4敗

▽2部予選リーグA組　岡山大21—20広島工大、広島工大22—13愛媛大、岡山大26—15愛媛大

▽同B組　香川大23—10山口大工学部、近畿大工学部23—12香川大、近畿大工学部20—9山口大工学部

▽同5位決定戦　山口大工学部19—9愛媛大

▽同3位決定戦　香川大16—15広島工大

▽同1位決定戦　近畿大工学部24—8岡山大

### 北信越

#### 金沢工大、富山大に快勝

◇6月5、6日◇金沢大体育館◇参加6校

6校を2組に分け予選リーグのあと、各組同位校で1〜6位を決めた。

A組では昨秋の優勝校・金沢大がエース小原を全日本学生のセレクションマッチ（東京）で欠いたため攻撃力が落ち金沢工大に押し切られ、連勝の望みをたたれた。B組は富山大が福井大を接戦の末かわして首位。決勝戦の金沢工大—富山大は、体力、走力に上廻る金沢工大が立ちあがりから富山大を圧倒、21点差の快勝で昨春以来2回目の優勝を飾った。なお、本州大は欠場した。

▽予選リーグA組

金沢工大 36—7 信州大
金沢工大 19—16 金沢大
金沢大 22—16 信州大

▽同B組
富山大 25－13 金沢美工大
福井大 22－13 金沢美工大
富山大 21－19 福井大

▽5・6位決定戦
信州大 23（12－4、11－4）8 金沢美術工芸大

▽3・4位決定戦
金沢大 37（21－2、16－1）3 福井大

▽優勝戦
金沢工大 33（16－8、17－4）12 富山大

## 各地2部以下の成績

### 関東は東京学芸大勝つ

◇関東男子2部 慶応22－13順天堂、東京学芸大15－9国士舘、防衛大17－15明星、明治15－10関東学院、慶応16－9関東学院、明治29－8順天堂、東京学芸大17－13明星、国士舘20－10防衛大、国士舘18－14関東学院、慶応12－11防衛大、東京学芸大9－6明治、明星20－15順天堂、明治23－9防衛大、東京学芸大12－8慶応、明星13－10関東学院、国士舘22－14順天堂、明星21－10明治、東京学芸大15－13関東学院、国士舘15－10慶応、防衛大19－13順天堂、東京学芸大21－12順天堂、明治10－10国士舘、明星17－11慶応、防衛大18－7関東学院、順天堂14－11関東学院、防衛大9－8東京学芸大、国士舘17－16明星、明治10－9慶応

【順位】①東京学芸大6勝1敗②国士舘5勝1敗1分③明治4勝2敗1分⑤防衛大・明星4勝3敗⑥慶応3勝4敗⑦順天堂1勝6敗⑧関東学院7敗

◇同3部 一橋19－12東大、独協25－13茨城大、武蔵工大10－8千葉工大、東海16－15千葉商大、千葉商大17－11武蔵工大、東海16－10東大、一橋18－16茨城大、千葉工大19－14独協、武蔵工大20－12東大、一橋14－14千葉工大、東海23－15茨城大、千葉商大15－12独協、千葉工大16－8東海、独協23－19東大、一橋18－16千葉商大、武蔵工大18－14茨城大、武蔵工大19－12独協、一橋－東海、東大12－12千葉商大、千葉工大17－4茨城大、茨城大23－10千葉商大武蔵工大18－12一橋、東海22－16独協、千葉工大15－11東大、一橋19－18独協、東海14－10武蔵工大千葉工大15－9千葉商大、東大23－17茨城大

▽同優勝決定戦 千葉工大22－16一橋

【順位】①千葉工大5勝1敗1分②一橋5勝1敗1分③東海・武蔵工大5勝2敗⑤千葉商大2勝4敗1分⑥独協2勝5敗⑦東大1勝5敗1分⑧茨城大1勝6敗

◇同4部Aブロック 上智19－11青山学院、都立大31－8千葉大、東京理科大16－14東京農工大、千葉大13－12東京農工大、上智19－12東京理科大、都立大24－8青山学院、上智19－9東京農工大、青山学院13－9千葉大、都立大21－7東京理科大、千葉大18－10東京理科大、青山学院10－6東京農工大、都立大22－9上智、東京理科大－青山学院、都立大14－7東京農工大、千葉大15－9上智

▽同Bブロック 山梨大10－9専修、成蹊20－5明治学院、成蹊18－10山梨大、横浜商大15－8専修、横浜商大－明治学院、成蹊16－13専修、横浜商大18－15成蹊、山梨大19－8明治学院、専修22－9明治学院、横浜商大17－6山梨大、流通経済大は全試合棄権

▽同11位決定戦 東京農工大 不戦勝 流通経済大

▽同9位決定戦 明治学院9－6青山学院

▽同7位決定戦 専修22－11東京理科大

▽同5位決定戦 千葉大21－9山梨大

▽同3位決定戦 成蹊19－11上智

▽同優勝決定戦 都立大19－14横浜商科大

（注）順位決定戦は各カードとも2試合を行う予定だったが雨のため1試合で打ち切りとなった。

◇東海男子2部 中部工大20－11愛知大、名古屋工大15－10三重大、静岡大41－14名古屋学院、名古屋工大24－10名古屋学院、中部工大20－9三重大、静岡大21－9愛知大、名古屋学院22－17愛知大、中部工大13－6名古屋工大、静岡大13－12三重大、名古屋工大22－7愛知大、三重大19－9名古屋学院、中部工大15－7静岡大、中部工大22－12名古屋学院、愛知大14－8三重大、静岡大16－12名古屋工大

【順位】①中部工大5戦全勝②静岡大4勝1敗③名古屋工大3勝2敗④三重大1勝4敗（得失点差マイナス13）⑤愛知大1勝4敗（マイナス35）⑥名古屋学院1勝4敗（マイナス55）

◇同3部（2回戦制） 滋賀大21－16県立三重大、愛知工大21－19滋賀大、愛知工大10－9県立三重大、県立三重大21－18滋賀大、愛知工大16－16滋賀大、愛知工大－県立三重大

【順位】①愛知工大勝ち点2（3勝1分）②滋賀大③県立三重大

◇関西男子2部 追手門学院13－9桃山学院、京大11－10神戸大、京都産大26－5立命館、京都産大13－7神戸大、桃山学院19－14立命館、京大18－12追手門学院、京都産大12－11追手門学院、京大14－11桃山学院、神戸大7－6立命館、京大10－9立命館、追手門学院18－12神戸大、京都産大22－16桃山学院、追手門学院21－8立命館、京都産大11－10京大、神戸大19－13桃山学院

【順位】①京都産大5戦全勝②京大4勝1敗③追手門学院3勝2敗④

神戸大2勝3敗⑤桃山学院1勝4敗⑥立命館5敗
◇同3部　竜谷18―9大阪大、大阪府大30―2大阪外語大、近畿大32―10和歌山大、竜谷25―17近畿大、大阪大17―8大阪府大、和歌山大23―11大阪外語大、竜谷17―5大阪外語大、大阪大34―7大阪外語大、竜谷20―6和歌山大、大阪府立大20―19近畿大、大阪大20―6和歌山大、竜谷18―13大阪府大、近畿大34―4大阪外語大、大阪府大19―12和歌山大、近畿大20―19大阪大
【順位】①竜谷5戦全勝②近畿大・大阪府立大・大阪大3勝2敗⑤和歌山大1勝4敗⑥大阪外語大5敗
◇同4部Aブロック　大阪市大17―14大阪薬科大、大阪市大25―10京都工繊大、大阪教大23―16天理大阪市大27―9天理、大阪教大17―17京都工繊大、大阪薬科大30―5京都工繊大、大阪市大22―10大阪教大、大阪薬科大25―19大阪教大、天理18―16京都工繊大、大阪薬科大22―13天理
◇同Bブロック　京都教大26―13大阪工大、大阪工大26―18大阪歯大、京都教大12―9関西外語大、大阪歯大13―8関西外語大、京都教大20―12大阪歯大、大阪工大18―10関西外語大
▽同5位決定戦　大阪教大20―7大阪歯大
▽同3位決定戦　大阪薬大19―10大阪工大
▽同優勝決定戦　大阪市大20―11京都教大

## 京都産大1部に昇格
### 名門・関西大破り決定

◇関西学生各部入れ替え戦（5月23日・大阪府大体育館）
▽3～4部
大阪市大（4部）28―10大阪外語大（3部）
▽2～3部
竜谷（3部）20（10―6、10―11）17立命館（2部）
▽1～2部
京都産大（2部）22（9―5、13―6）11関西大（1部）

## 中京、中京女が2連勝

◇東海学生新人戦（5月・名古屋）
▽男子トーナメント1回戦
南山 15―8 愛知大
愛知教大 23―9 岐阜大
▽同準々決勝
中京 34―3 南山
愛知工大 15―9 名工大
名城 23―11 愛知教大
三重大 10―7 中部工大
▽同準々決勝
中京 40―3 愛知工大
名城 19―8 三重大
▽同3位決定戦
三重大 21―5 愛知工大
▽同決勝
中京 26（13―6、13―8）14 名城
中京大は2連勝
▽女子1回戦（1試合）
愛知教大 17―4 中京
▽同決勝
中京女 10（4―4、6―1）5 愛知教大
中京女大は2連勝。

## 北海道学連支部が発足

かねてから結成が期待されていた北海道学生界の最初のステップとしてこのほど東北北海道学連内に北海通支部が発足、加盟校（男子のみ）役員などを次のように決め発表した。
▽加盟校　小樽商大、北海道教育大釧路分校、室蘭工大、北大
▽準加盟校　北見工大、北海学園
▽会長　宮崎兼光▽理事長　浅井正大（北大出）▽理事　目黒土門新橋満、中橋尚彦、▽委員長　梅田耕一（北大）▽委員　岩崎正満神内渉、中南仁。

## 早大、善戦の慶・明降す

第11回早慶明3大学定期戦は6月12日東京・早大記念会堂で行われた。
早稲田 20（9―10、11―7）17 明治
慶応 15（8―10、7―4）14 明治
早稲田 17（9―8、8―8）16 慶応
早稲田の優勝は2年連続8回目

## 松山商大、2回目の栄冠

第21回西部大学選手権は6月13・14の2日間松山商大に中四国、九州両学連から14校が参加して行われ、松山商大（中四国）が決勝で広島大福山（中四国）を20―11で破り2年ぶり2度目の優勝を飾った。（詳報次号）

## 続・有力80チーム新戦力特集

### ◇男子　金沢大（石川）

K加　藤 169cm
F本　野 170
　林 169
小　原 175
村　井 172
川　瀬 173
小　村 177

▽主な新人
小　川（向陽高）

### 熊本トヨタ自動車（熊本）

K中　島 175
F坂　田 177
毛　利 176
　泰 177
竹　下 177
林　田 167
鶴　嶋 163

▽主な新人
中　島
鶴　嶋

### 熊本商科大（熊本）

K九　谷 172
F柏　原 167
田　苗 172
　森 170
丸　野 173
霜　村 165
福　林 173

▽主な新人
霜　村（水俣高）
川　辺（鹿本高）
福　林（水俣高）

### 修道クラブ（広島）

K山　本 175
F児　玉 172
田　中 170
堀　口 178
小　畑 170
川　上 176
槇　場 172

▽主な新人
山　本（早　大）
財　満（広島大）
小　畑（広島大）

### 岡山大（岡山・中四国学連）

K藤　原 171
F難　波 171
小　原 173
小　林 163
大　橋 175
石　野 170
大　熊 176

▽主な新人
藤　田（玉野高）

### ムネカタ（大阪）

K古　閑
F村　上
金　子
平　瀬
黒　田
　辻
岩　畔

▽主な新人
篠原（熊本市高）
藤山（浪 商 高）

### ◇女子　福岡教育大（福岡）

K桑　岡 155
F柴　田 150
船　越 153
山　本 157
鍋　島 150
松　岡 158
古　賀 157

▽主な新人
古　賀（佐世保北高）

### 大阪体育大（大阪・関西学連）

K戸　谷 156
F玉　岡 152
　岡 160
石　川 152
花　谷 162
堀　川 159
周　防 164

▽主な新人
加　藤（野田高）
大谷（三国丘高）
山本（京都女高）
桜　井（喜界高）
高　木（野田高）
信　原（野田高）
松　本（向陽高）

（注）今回は前号〆切り後アンケートが到着した8チームを紹介しました。この特集は本号で打ち切らせていただきます。

# 第22回全日本高校選手権
# 各県予選記録①

▽太字は代表校
▽6月10日まで報告分

## 東北

### ▽…岩手県

▼男子1回戦（3試合）
盛岡商 17－12 盛岡四
花巻農 23－6 福岡
谷村学院 10－8 盛岡市立
▽同準々決勝
盛岡商 8－6 花巻北
花巻農 11－10 盛岡一
一関工 12－10 岩手
生活学園 13－12 谷村学院
▽同準決勝
盛岡商 13－9 花巻農
生活学園 10－9 一関工
▽同決勝
**盛岡商** 23－3 生活学園
盛岡商は2年連続4回目の代表

▼女子1回戦（2試合）
花巻南 6－0 平館
岩手女 6－1 盛岡二
▽同準々決勝
花巻南 9－6 谷村学院
大東大原 9－3 花巻農
花巻北 8－4 黒沢尻南
岩手女 6－1 一関修紅
▽同準決勝
花巻南 6－2 大東大原
花巻北 4－2 岩手女
▽同決勝
**花巻北** 5－4 花巻南
花巻北高は初出場

## 北陸・信越

### ▽…福井県

▼男子1回戦（1試合）
若狭 15－10 高志
▽同準決勝
福井商 10－7 藤島
羽水 11－4 若狭
▽同決勝
**羽水** 3－1 福井商
羽水高は2年ぶり3回目の代表

▼女子1回戦（2試合）
高志 7－5 藤島
武生商 8－5 羽水
▽同準決勝
福井商 7－6 高志
武生商 5－4 若狭
▽同決勝
**武生商** 8－3 福井商
武生商は初出場

## 近畿

### ▽…大阪府

▼男子第1次予選1回戦
北淀 15－9 初芝
箕面 19－14 勝山
千里 13－9 泉南
淀商 18－11 西野田
八尾 17－4 阿倍野
豊中 17－8 桃山
鶴見商 17－14 北陽
佐野工 27－6 淀川工
清風 17－1 三島
寝屋川 14－5 枚方
天王寺 棄権 此花工
大阪市立 14－5 大阪学院
泉陽 18－7 生野
城東工 22－8 山本
桜塚 14－10 浪商
花園 22－4 岸和田
北野 没収試合 食品産業
大商 9－6 春日丘
▽同2回戦
堺工 19－12 北淀
茨木 14－10 箕面
富田林 14－6 千里
此花商 11－8 淀商
豊中 9－8 八尾
鶴見商 15－11 泉大津
鳳 16－13 佐野工
池田 17－5 清風
都島工 8－6 寝屋川
天王寺 棄権 東淀工
三国丘 18－3 大阪市立
泉陽 18－9 住吉
城東工 12－10 桜塚
花園 18－7 和泉工
泉北 13－8 北野
上宮 18－7 大商
▽同3回戦
堺工 21－9 茨木
富田林 13－4 此花商
豊中 15－3 鶴見商
鳳 14－6 池田
天王寺 10－8 都島工
三国丘 10－9 泉陽
花園 15－4 城東工
泉北 10－9 上宮
勝者8校は第3次（最終）予選に進出。

▼女子第1次予選1回戦
清友 4－3 北淀
梅花 4－3 三国丘
春日丘 14－1 箕面
池田 13－1 鳳
枚方 18－3 豊中
住吉学園 7－5 八尾
▽同2回戦
清友 2－1 初芝
梅花 9－7 岸和田
泉北 棄権 東大阪
春日丘 7－4 鶴見商
天王寺 5－0 池田
城南 6－5 大阪女短大附
枚方 17－3 桜塚
寝屋川 7－3 住吉学園
▽同3回戦
清友 7－1 梅花
春日丘 17－4 泉北
天王寺 6－2 城南
枚方 8－2 寝屋川
勝者4校は第3次（最終）予選に進出。

▼男子の第2次予選は4地区に分かれて行われすでに終了。男子では佐野工、東住吉、寝屋川、北淀、初芝、勝山、城東工、大商が、女子では初芝、八尾、寝屋川、北淀の各校が第3次（最終）予選への進出を決めている。（第3次予選の記録は次号で詳報）

## 中国

### ▽…広島県

▼男女1回戦
城北 24－3 竹原安芸津分
修道 15－11 三原工
呉三津田 10－7 山陽
松本商 21－11 呉港
宮原 23－6 白木
▽同準々決勝
呉工 27－3 城北
修道 15－14 呉三津田
広 19－14 松本商
呉商 14－7 宮原
▽同準決勝
修道 10－8 呉工
広 12－7 呉商
▽同決勝
**修道** 15－11 広
修道高は5年ぶり13回目の代表

▼女子1回戦（1試合）

豊栄 7—3 賀茂
▽同準々決勝
山陽女 15—0 豊栄
呉商 14—1 白木
宮原 7—5 戸手商
進徳 7—6 第一女商
▽同準決勝
山陽女 19—2 呉商
宮原 7—4 進徳
▽同決勝
山陽女 22—3 宮原
山陽女高は2年連続10回目の代表

## 四国

### ▽…香川県

▼男子1回戦（3試合）
高松商 12—4 坂出工
高松工芸 16—1 丸亀
高松南 13—4 高松東
▽同準々決勝
三本松 21—2 多度津水産
土庄 15—3 高松商
高松工芸 14—7 高松一
高松南 13—11 多度津工
▽同準決勝
三本松 12—1 土庄
高松工芸 12—5 高松南
▽同決勝
三本松 9—5 高松工芸
三本松高は3年連続3回目の代表
▼女子1回戦（1試合）
高松女商 20—3 観音寺商
▽同準決勝
高松南 10—4 高松一
三本松 9—1 高松女商
▽同決勝
三本松 10—7 高松南
三本松高は2年ぶり6回目の代表

### ▽…高知県

▼男子1回戦
伊野商 21—6 須崎
幡多農 24—3 高知中央
中村 8—4 追手前吾北
土佐 12—5 宿毛工
中芸 16—12 園芸
▽同準々決勝
追手前 21—8 伊野商
幡多農 8—6 中村
高知西 15—8 土佐
須崎工 17—8 中芸
▽同準決勝
追手前 14—11 幡多農
須崎工 8—6 高知西
▽同決勝
追手前 18—9 須崎工
追手前高は3年連続4回目の代表
▼女子1回戦（2試合）
中村 5—4 佐川
幡多農 7—5 中芸
▽同準々決勝
追手前 14—3 幡多農
高知西 6—4 高岡
城山 9—3 伊野商
山田 17—0 中村
▽同準決勝
追手前 8—2 高知西
山田 3—0 城山
▽同決勝
追手前 4—2 山田
追手前高は初出場。

## 東海

### ▽…岐阜県

▼男子予選トーナメント1回戦
益田 18—7 岐阜高専
大垣 15—5 岐阜工
岐阜東 18—3 東濃実業
多治見北 14—4 岐阜南工
岐阜西工 22—5 明智商
大垣北 10—5 岐阜
岐阜南 24—3 高山
岐阜商 17—9 本巣
岐阜北 11—6 大垣工
大垣農 13—8 羽島
斐太実業 23—11 南濃
大垣南 14—6 海津
市岐阜商 15—7 高山西
不破 18—5 斐太
▽同2回戦
加納 25—7 益田
岐阜東 18—8 大垣
大垣南 19—5 市岐阜商
多治見北 9—7 岐阜西工
岐阜南 13—4 大垣北
県岐阜商 11—4 岐阜北
斐太実業 22—8 大垣南
岐山 14—9 不破
▽同決勝リーグ出場校決定戦
加納 24—6 岐阜東
県岐阜商 11—9 斐太実業
岐阜南 7（分）7 多治見北
抽せんで岐阜南高の勝ち
岐山 14—9 大垣南
▽同決勝リーグ
加納 7—6 岐阜南
岐山 6—4 県岐阜商
加納 8—2 県岐阜商
岐山 9—7 岐阜南
岐阜南 13—9 県岐阜商
加納 12—7 岐山
【順位】①加納②岐山③岐阜南④県立岐阜商。加納高は2年連続11回目の代表
▼女子予選トーナメント1回戦
多治見北 5—2 羽島柳津
富田女 6—2 高山西
大垣南 9—3 羽島
大垣農 15—4 明智商
大垣 3—2 斐太
鶯谷 5—3 南濃
▽同2回戦
加納 15—2 多治見北
大垣北 6—2 不破
養老女 8—1 富田女
県岐阜商 4—3 大垣南
本巣 10—1 大垣農
岐阜南 16—2 大垣
益田 19—1 岐阜北
高山 12—0 鶯谷
▽同決勝リーグ出場校決定戦
加納 16—0 大垣北
県岐阜商 10—7 養老女
本巣 6—5 岐阜南
益田 9—1 高山
▽同決勝リーグ
加納 13—4 県岐阜商
本巣 4—3 益田
加納 5—2 本巣
県岐阜商 6（分）6 益田
県岐阜商 5—3 本巣
加納 13—8 益田
【順位】①加納②県立岐阜商③本巣④益田。加納高は3年ぶり7回目の代表

### 国際交流規定を検討

日本協会は盛んになる国際交流を掌握するため"国際交流内規"の検討すすめることになった。この内規の対象は各地方協会、各加盟団体、各チームにおかれるが、基本的には45年1月24日の全国理事会で決めた「企画段階で日本協会へ届出る」（本誌73号参照）線が主体となろう。

### 編集部からのお願い

今年度の日本協会登録は5月31日で締切られましたがこれにともない編集部では機関誌送付先の書きかえ業務を行っています。

万が一本誌未着の場合はただちに御連絡下さい。特にクラブチーム、男女登録をされている高校チームの一方に未着のケースがあるようですので関係者側のチェックも充分お願いいたします。

# ブラザー工業宿願遂ぐ

## 各地の記録

第7回東海実業団選手権は5月30日と6月6日の2日間四日市市体育館に男子16、女子3チームが参加して開かれた。

男子はトーナメントで争われ有力とみられた各チームが順当に勝ち進み、決勝は大同製鋼（愛知）本田技研（三重）の顔合せから大同が前半で10点差をつける快攻を示し2連勝した。過去5回優勝、前回2位の常盤工業（岐阜）はトヨタ車体に1回戦で敗れた。

女子は2回戦制のリーグ戦。戦力充実のブラザー工業（愛知）は第1日、大洋紡（岐阜）に楽勝したあと常勝田村紡（三重）も大接戦の末降し2勝、そのまま独走するかにみえた。ところが、第2日の大洋紡戦に敗れる誤算を招き、つづく試合で田村紡が大洋紡を苦戦ながらも退けたことで〝苦境〟に立たされた。優勝をかけた最終戦、田村紡は前半リードしたがブラザーは後半逆転、田村紡の7連勝を阻み宿願の初優勝を遂げた。

昭和39年〝田村紡時代〟が築かれて以来、東海地区の選手権で同チームが優勝できなかったのは42年9月の第19回東海選手権（優勝・愛知紡）につづいて2回目のこと。

▽男子トーナメント1回戦

大同製鋼（愛知）43（23－2、20－6）8 静岡日野自動車

大協石油（三重）21（11－5、10－9）14 新東工業（愛知）

新日鉄名古屋（愛知）25（16－9、9－3）12 日本耐酸壜（岐阜）

北陸電力（福井）25（13－3、12－2）5 日本合成ゴム（三重）

本田技研（三重）46（23－1、23－1）2 タヨシ産業（愛知）

日本碍子（愛知）30（5－4、4－4、13－9、8－12）29 金沢市役所（石川）

トヨタ車体（愛知）19（11－6、8－12）16 常盤工業（岐阜）

三菱油化（三重）24（14－8、10－8）16 豊田工機（愛知）

▽同準々決勝

大同製鋼 35（18－7、17－4）11 大協石油

新日鉄名古屋 15（7－4、8－5）9 北陸電力

本田技研 30（14－6、16－2）8 日本碍子

トヨタ車体 26（13－11、13－6）17 三菱油化

▽同準決勝

大同製鋼 22（10－1、12－4）5 新日鉄名古屋

本田技研 10（3－4、7－2）6 トヨタ車体

▽同3位決定戦

トヨタ車体 24（14－14、10－7）21 新日鉄名古屋

▽同決勝

大同製鋼 28（14－8、14－4）12 本田技研

▽女子リーグ（2回戦制）

田村紡（三重）14（5－4、9－0）4 大洋紡（岐阜）

ブラザー工業（愛知）10（5－2、5－1）3 大洋紡

ブラザー工業 8（4－3、4－4）7 田村紡

大洋紡 7（3－2、4－3）5 ブラザー工業

田村紡 10（4－4、6－5）9 大洋紡

ブラザー工業 6（4－1、2－3）4 田村紡

【順位】①ブラザー工業勝ち点6（3勝1敗）②田村紡4（2勝2敗）③大洋紡2（1勝3敗）

### 鳳と枚方高が初優勝

▼第25回大阪府民体育大会高校の部（5月・天王寺高ほか）

▽男子準々決勝

堺工 11－10 富田林

鳳 23－4 豊中

天王寺 18－7 三国丘

花園 10－9 泉北

▽同準決勝

鳳 13－8 堺工

花園 15－5 天王寺

▽同決勝

鳳 11（5－8、6－2）10 花園

鳳高は初優勝

▽女子準々決勝

清友 7－1 梅花

春日丘 17－4 泉北

天王寺 6－2 城南

枚方 8－2 寝屋川

▽同準決勝

春日丘 7－1 清友

枚方 9－6 天王寺

▽同決勝

枚方 7（4－2、3－3）5 春日丘

枚方高は初優勝

### 境港市役所が順当勝ち

▼鳥取県一般男子リーグ（5月・境港工）

米子ク 91（5－10、14－5）15 米子高専

境港市役所 20（16－7、4－6）13 米子高専

境港市役所 24（12－5、12－4）9 米子ク

### 佐世保が2勝で首位

▼長崎県民総合体育大会ハンドボール競技（6月・佐世保）

▽一般男子決勝リーグ

佐世保 28－15 長崎

大村 22－12 長崎

佐世保 36－23 大村

### 教員ク、全和歌山制す

▼第7回和歌山県民体育大会ハンドボール競技（6月・打田町）

▽一般男子対抗戦

和歌山教員ク 20（12－10、8－6）16 全和歌山

▽同女子対抗戦

全和歌山 17（10－1、7－3）4 県高校選抜軍

### 日川ク、塩山クを破る

▼第3回山梨県社会人選手権（6月・甲府）＝男子のみ

▽準々決勝

塩山ク 11－10 山梨大ク

甲府ク 15－11 桜球ク

日川ク 23－15 教員ク

NEC 23－6 山交ク

▽準決勝

塩山ク 8（分）8 甲府ク

抽せんで塩山クの勝ち

日川ク 33－8 NEC

▽決勝

日川ク 10（2－0、1－1、3－3、4－4）8 塩山ク

### 関東協会もクラブ大会

関東協会では今年度からクラブ選手権を行うことになり第1回大会を7月24、25の両日茨城県土浦市で開く準備をしている。

出場チームは関東8都県から男女各1チームが集る予定。

お詫び・本誌86号32頁「各地の記録」東北室内総合の記事中、女子準決勝2試合の記録が脱落していました。

全和洋 10－2 花巻北高

宗形製作所 6－2 全岩手

## 児島柏会、決勝で惜敗

▼岡山県春季一般男子優勝大会（5月・天城高）

▽準々決勝

川崎製鉄 23－18 全倉敷

岡山教員ク 33－12 九州耐火

岡山大 22－13 津山工専

児島柏会 21－12 落合ク

▽準決勝

岡山教員ク 28－17 川崎製鉄

児島柏会 13－10 岡山大

▽同決勝

岡山教員ク 17（9－2、8－11）13 児島柏会

## 守山女高が快勝

▼滋賀県高校春季大会（5月・八幡高）

▽男子決勝トーナメント1回戦

彦根東 11－9 八幡工

高島 23－4 八幡商

▽同決勝

高島 8（4－2、4－5）7 彦根東

▽女子トーナメント1回戦

守山女 7－2 高島

彦根東 6－4 八幡商

▽同決勝

守山女 6（3－3、3－0）3 彦根東

## 男子は羽水高勝つ

▼福井県春季高校大会（5月・福井商）

▽男子1回戦（1試合）

藤島 14－9 高志

▽同準決勝

福井商 9－8 若狭

羽水 7－2 藤島

▽同決勝

羽水 6（2－1、4－4）5 福井商

▽女子1回戦（2試合）

福井商 7－4 藤島

武生商 6－3 羽水

▽同準決勝

福井商 7－5 高志

若狭 7－4 武生商

▽同決勝

若狭 7（3－3、4－2）5 福井商

## 青森西高いぜん強味

▼第9回川島杯争奪青森県高校選手権（5月・鯵ケ沢）

▽男子予選ラウンド

柏木農 17－6 青森商

三本木 11－10 七戸

十和田工 12（分）12 青森商

鯵ケ沢 17－8 青森

柏木農 35－11 十和田工

▽同決勝リーグ

三本木 11－10 柏木農

鯵ケ沢 20－7 三本木

鯵ケ沢 11（分）11 柏木農

▽女子決勝（2回戦制）

青森西 14（9－1、5－1）2 三本木

青森西 12（8－2、4－3）5 三本木

## 労作・二つの会報

二つの会報がとどけられた。茨城大ＯＢ会の「関東学連加盟20周年記念誌」と法政工ＯＢ会の「全法政工ハンドボール19号」である。

ふつう記念誌というと〝栄光の記録〟が中心なものだが、この二つの会報を注目したいのは極めて地味な存在のチームが刊行していることだ。

茨城大誌は特にそうした色彩が濃い。地理的な条件をはじめハンディの多い環境にありながら、ハンドボールへの情熱を唯一の支えにして20年の才月を刻んだ苦労が全頁ににじみでている。この辛苦、これからも〝誇り〟にして欲しい。むしろ1勝よりも優るものだからだ。いつもながら記念誌を飾る先輩の寄稿ほど読ませるものはない。

全法政工紙は〝編集者〟の情熱が強烈な印象を与える。半紙大謄写刷りの労作で会員の動向よりもハンドボール界全般のトピックにスペースをさいているのは異色。19号では関東協会がクラブ大会を計画しているニュースが大きく扱われた。読者（会員）を喜ばせる話にちがいない。

二つの会報を読み終ってつくづく感じたのは底辺の偉大さとたくましさである。（S）

## 中学大会記録

◇名古屋市春季大会（5月・名古屋）参加＝男21、女10。

▽男子準々決勝

笹島 17－3 千種台

菊井 20－10 桜山

前津 20－8 守山西

港北 29－17 明豊

▽同準決勝

笹島 17－7 菊井

港北 15－6 前津

▽同決勝

笹島 17（10－3、7－5）8 港北

▽女子準々決勝

笹島 21－5 桜田

港北 8－6 港南

菊井 9－4 前津

明豊 10－8 守山

▽同準決勝

笹島 12－6 港北

明豊 9－3 菊井

▽同決勝

明豊 9（5－3、4－5）8 笹島

中学大会記録欄への寄稿をお願いいたします。参加校数を明記して下さい。

## 編集後記

いよいよ夏の本格的シーズンに入ります。まず選抜選手権、続いて、実業団選手権8月に入るとインターハイ、教職員大会と大きな大会が目白押しに並んでいます。

実業団のトーナメント・リーグ制、今年も好評ですし、女子に白花醸造をオープン参加させるなど、実業団連盟は次々に好企画を打ち出しています。

好企画と云えば、A・B級の審判審査、これも正に好企画と云えましよう。ペーパーテストの問題もなるほどと思わせるものばかりこれに実技テストが加わって、審査員諸氏がジックリと各受験者のプレーを評価してから、決を下すというのですから、今後のA・B級の資格者は真の意味の有資格者ということになりましよう。

今後これが充分に発展していくことを望みたいものです。

ニュース的なものが多く、各地の記録にも投稿が多くなり紙面がいささか狭くなってきています。この7月から郵税の値上げ、従来1冊につき送料6円であったものが16円になります。財政的にかなり圧迫を受けますが、値段は据置きます。読者が増えることが唯一の移みです。読者増加に御協力下さい。（F）

日本ハンドボール協会編
「ハンドボール」
第八十八号
昭和四十年六月 第三種郵便物認可
昭和四十六年六月二十五日印刷 昭和四十六年七月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
京都渋谷区神南一−一−一
話 大代表(467)三一二一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価 百五十
(年間購読11回・千二百円